

12.1.2 水環境 1.水質

表ー1 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.2-10 [900]）

現行（準備書 p 12.1.2-10 [900]）
<p>ウ. 溶存酸素量（DO）</p> <p>溶存酸素量（DO）は、定量下限値(0.5mg/L)未満～11mg/Lの範囲にあり、全層の年間の平均値は6.9mg/Lである。</p> <p>オ. 大腸菌群数</p> <p>大腸菌群数は、定量下限値(2MPN/100mL)未満～2,400MPN/100mLの範囲にあり、全層の年間の平均値は112MPN/100mLである。環境基準が定められているA類型では全ての検体が環境基準(A類型：1,000MPN/100mL以下)に適合している。</p>
修正後
<p>ウ. 溶存酸素量（DO）</p> <p>溶存酸素量（DO）は、定量下限値(0.5mg/L)未満～10mg/Lの範囲にあり、全層の年間の平均値は6.9mg/Lである。</p> <p>オ. 大腸菌群数</p> <p>大腸菌群数は、定量下限値(2MPN/100mL)未満～2,400MPN/100mLの範囲にあり、全層の年間の平均値は100MPN/100mLである。環境基準が定められているA類型では全ての検体が環境基準(A類型：1,000MPN/100mL以下)に適合している。</p>

【修正理由】

1-118,119 頁に示す第 12.1.2.1-3 表の修正に伴い、修正した。

表-2 準備書記載内容の修正内容 (準備書 p 12.1.2-11 [901])

現行 (準備書 p 12.1.2-11 [901])

第 12.1.2.1-3 表 水質の調査結果 (水の汚れ)

調査項目	調査層	春季 (平成28年5月8日)			夏季 (平成28年8月17日)			秋季 (平成28年11月15日)			冬季 (平成28年2月24日)			年間		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
化学的 酸素要求量 〔COD〕 (mg/L)	表層	2.7	4.0	3.3	3.1	7.6	5.0	1.8	2.8	2.2	1.7	2.9	2.2	1.7	7.6	3.2
	中層	2.9	3.7	3.2	3.2	6.8	4.7	2.0	2.6	2.3	1.9	2.9	2.3	1.9	6.8	3.1
	下層	1.8	2.5	2.1	0.9	3.2	2.5	1.4	2.3	1.9	1.6	2.5	2.0	0.9	3.2	2.1
	全層	1.8	4.0	2.9	0.9	7.6	4.1	1.4	2.8	2.1	1.6	2.9	2.2	0.9	7.6	2.8
水素イオン 濃度 〔pH〕	表層	8.0	8.2	8.1	8.0	8.6	8.3	7.9	8.0	8.0	7.9	8.0	8.0	7.9	8.6	8.1
	中層	8.0	8.2	8.2	8.0	8.5	8.3	7.9	8.1	8.0	7.9	8.0	8.0	7.9	8.5	8.1
	下層	7.8	8.1	8.0	7.7	8.3	7.8	7.9	8.1	8.0	7.9	8.0	8.0	7.7	8.3	7.9
	全層	7.8	8.2	8.1	7.7	8.6	8.1	7.9	8.1	8.0	7.9	8.0	8.0	7.7	8.6	8.0
溶存酸素量 〔DO〕 (mg/L)	表層	6.7	8.3	7.9	6.2	11	8.2	6.7	8.2	7.5	8.1	9.6	8.9	6.2	11	8.1
	中層	6.6	8.3	7.9	3.7	9.6	7.2	6.9	8.0	7.5	7.5	9.8	8.8	3.7	9.8	7.9
	下層	4.9	8.4	6.6	0.8	6.7	2.3	6.0	7.6	6.9	6.9	9.2	8.3	0.8	9.2	6.0
	底層	4.4	8.1	6.3	<0.5	2.9	1.4	5.8	7.3	6.6	6.9	9.0	8.2	<0.5	9.0	5.6
	全層	4.4	8.4	7.2	<0.5	11	4.8	5.8	8.2	7.1	6.9	9.8	8.6	<0.5	11	6.9
n-ヘキサ ン抽出物質 〔油分等〕 (mg/L)	表層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
	中層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
	下層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
	全層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
大腸菌群数 (MPN/100mL)	表層	<2	79	20	23	1300	260	17	2400	320	4	1300	120	<2	2400	184
	中層	<2	49	10	11	790	180	22	920	160	2	1300	110	<2	1300	118
	下層	<2	13	3	17	220	54	13	540	70	<2	13	5	<2	540	33
	全層	<2	79	11	11	1300	160	13	2400	180	<2	1300	84	<2	2400	112

注：1. 調査層は表層が海面下 0.5m、中層が海面下 2 m、下層が海面下 10m (ただし、水深 10m 以浅の調査地点においては海底上 1 m)、底層は海底上 1 m を示す。調査地点 7、調査地点 16 は水深 10m 以浅である。

2. 最小、最大、平均は、20 地点の値を示す。

修正後

第 12.1.2.1-3 表 水質の調査結果（水の汚れ）

調査項目	調査層	春季 (平成28年5月8日)			夏季 (平成28年8月17日)			秋季 (平成28年11月15日)			冬季 (平成28年2月24日)			年間		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
化学的 酸素要求量 〔COD〕 (mg/L)	表層	2.7	4.0	3.3	3.1	7.6	5.0	1.8	2.8	2.2	1.7	2.9	2.2	1.7	7.6	3.2
	中層	2.9	3.7	3.2	3.2	6.8	4.7	2.0	2.6	2.3	1.9	2.9	2.3	1.9	6.8	3.1
	下層	1.8	2.5	2.1	0.9	3.2	2.5	1.4	2.3	1.9	1.6	2.5	2.0	0.9	3.2	2.1
	全層	1.8	4.0	2.9	0.9	7.6	4.1	1.4	2.8	2.1	1.6	2.9	2.2	0.9	7.6	2.8
水素イオン 濃度 〔pH〕	表層	8.0	8.2	8.1	8.0	8.6	8.3	7.9	8.0	8.0	7.9	8.0	8.0	7.9	8.6	8.1
	中層	8.0	8.2	8.1	8.0	8.5	8.3	7.9	8.1	8.0	7.9	8.0	8.0	7.9	8.5	8.1
	下層	7.8	8.1	7.9	7.7	8.3	7.8	7.9	8.1	8.0	7.9	8.0	8.0	7.7	8.3	7.9
	全層	7.8	8.2	8.1	7.7	8.6	8.1	7.9	8.1	8.0	7.9	8.0	8.0	7.7	8.6	8.0
溶存酸素量 〔DO〕 (mg/L)	表層	6.7	8.3	7.9	6.2	10	8.1	6.7	8.2	7.5	8.1	9.6	8.9	6.2	10	8.1
	中層	6.6	8.3	7.9	3.7	9.6	7.2	6.9	8.0	7.5	7.5	9.8	8.8	3.7	9.8	7.9
	下層	4.9	8.4	6.6	0.8	6.7	2.3	6.0	7.6	6.9	6.9	9.2	8.3	0.8	9.2	6.0
	底層	4.4	8.1	6.3	<0.5	2.9	1.4	5.8	7.3	6.6	6.9	9.0	8.2	<0.5	9.0	5.6
n-ヘキサ ン抽出物質 〔油分等〕 (mg/L)	表層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
	中層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
	下層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
	全層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
大腸菌群数 (MPN/100mL)	表層	<2	79	20	23	1300	260	17	2400	320	4	1300	120	<2	2400	180
	中層	<2	49	10	11	790	180	22	920	160	2	230	58	<2	920	100
	下層	<2	13	3	17	220	54	13	540	70	<2	13	5	<2	540	33
	全層	<2	79	11	11	1300	160	13	2400	180	<2	1300	64	<2	2400	100

注：1. 調査層は表層が海面下 0.5m、中層が海面下 2 m、下層が海面下 10m（ただし、水深 10m 以浅の調査地点においては海底上 1 m）、底層は海底上 1 m を示す。調査地点 7、調査地点 16 は水深 10m 以浅である。
2. 最小、最大、平均は、20 地点の値を示す。

【修正理由】

1-120～124 頁に示す第 12.1.2.1-4 表(2) ,(3) ,(6)の修正に伴い、修正した。

表-3 準備書記載内容の修正内容 (準備書 p 12.1.2-13 [903])

现行 (準備書 p 12.1.2-13 [903])

第 12.1.2.1-4 表(2) 水質の調査結果 (水の汚れ・調査地点別)

調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
水素イオン濃度「pH」	-	1	表層	8.1	8.6	8.0	7.9
			中層	8.2	8.4	8.0	7.9
			下層	7.8	7.7	8.0	7.9
		2	表層	8.0	8.5	7.9	8.0
			中層	8.1	8.4	8.0	8.0
			下層	7.9	7.9	8.0	8.0
		3	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.2	8.3	8.0	8.0
			下層	8.0	7.8	8.0	8.0
		4	表層	8.2	8.4	8.0	8.0
			中層	8.2	8.5	8.0	8.0
			下層	7.8	7.7	8.0	8.0
		5	表層	8.1	8.4	8.0	7.9
			中層	8.2	8.4	8.0	8.0
			下層	7.9	7.8	8.0	8.0
		6	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.2	8.3	8.0	8.0
			下層	8.1	7.8	8.0	8.0
		7	表層	8.0	8.0	8.0	7.9
			中層	8.0	8.1	8.0	7.9
			下層	7.8	7.7	8.0	7.9
		8	表層	8.0	8.2	8.0	7.9
			中層	8.0	8.0	8.0	7.9
			下層	8.0	7.7	8.0	7.9
		9	表層	8.2	8.4	8.0	8.0
			中層	8.2	8.4	8.0	8.0
			下層	8.0	7.9	8.0	8.0
		10	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.1	8.3	8.0	8.0
			下層	8.0	7.9	8.0	8.0
		11	表層	8.0	8.4	8.0	8.0
			中層	8.1	8.3	8.0	8.0
			下層	8.1	8.3	8.1	8.0
		12	表層	8.1	8.2	7.9	8.0
			中層	8.2	8.0	7.9	7.9
			下層	7.9	7.7	7.9	8.0
		13	表層	8.2	8.2	8.0	8.0
			中層	8.1	8.2	8.0	8.0
			下層	8.0	7.8	8.0	8.0
		14	表層	8.2	8.2	8.0	8.0
			中層	8.2	8.2	8.0	8.0
			下層	8.0	7.8	8.0	8.0
		15	表層	8.1	8.3	8.0	7.9
			中層	8.2	8.4	8.0	7.9
			下層	8.0	7.7	8.0	8.0
		16	表層	8.1	8.4	8.0	7.9
			中層	8.2	8.4	8.0	7.9
			下層	8.0	7.8	8.0	8.0
		17	表層	8.1	8.2	8.0	8.0
			中層	8.2	8.2	8.0	8.0
			下層	7.9	7.7	8.0	8.0
		18	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.2	8.3	8.0	8.0
			下層	8.0	7.8	8.1	8.0
		19	表層	8.0	8.3	8.0	8.0
			中層	8.1	8.3	8.0	8.0
			下層	7.9	7.8	8.0	8.0
		20	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.1	8.3	8.1	8.0
			下層	7.9	7.9	8.1	8.0

注：1. 調査地点は、第 12.1.2.1-2 図を参照。

2. 調査層は表層が海面下 0.5m、中層が海面下 2m、下層が海面下 10m (ただし、水深 10m 以浅の調査地点においては海底上 1m) を示す。調査地点 7、調査地点 16 は水深 10m 以浅である。

修正後

第 12.1.2.1-4 表(2) 水質の調査結果 (水の汚れ・調査地点別)

調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
水素イオン濃度 [pH]	-	1	表層	8.1	8.6	7.9	7.9
			中層	8.2	8.4	8.0	7.9
			下層	7.8	7.7	7.9	7.9
		2	表層	8.0	8.5	7.9	8.0
			中層	8.1	8.4	8.0	8.0
			下層	7.9	7.9	8.0	8.0
		3	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.2	8.3	8.0	8.0
			下層	8.0	7.8	8.0	8.0
		4	表層	8.1	8.4	8.0	8.0
			中層	8.2	8.5	8.0	7.9
			下層	7.8	7.7	8.0	8.0
		5	表層	8.1	8.4	8.0	7.9
			中層	8.2	8.4	8.0	8.0
			下層	7.9	7.8	8.0	8.0
		6	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.2	8.3	7.9	8.0
			下層	8.1	7.8	8.0	8.0
		7	表層	8.0	8.0	7.9	7.9
			中層	8.0	8.1	8.0	7.9
			下層	7.8	7.7	8.0	7.9
		8	表層	8.0	8.2	8.0	7.9
			中層	8.0	8.0	8.0	7.9
			下層	8.0	7.7	8.0	7.9
		9	表層	8.1	8.4	8.0	8.0
			中層	8.2	8.4	8.0	8.0
			下層	8.0	7.9	8.0	8.0
		10	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.1	8.3	8.0	8.0
			下層	8.0	7.9	8.0	8.0
		11	表層	8.0	8.4	8.0	8.0
			中層	8.1	8.3	8.0	8.0
			下層	8.1	8.3	8.1	8.0
		12	表層	8.1	8.2	7.9	8.0
			中層	8.2	8.0	7.9	7.9
			下層	7.9	7.7	7.9	8.0
		13	表層	8.2	8.2	8.0	8.0
			中層	8.1	8.1	8.0	8.0
			下層	7.9	7.7	8.0	8.0
		14	表層	8.2	8.2	8.0	8.0
			中層	8.2	8.2	8.0	8.0
			下層	8.0	7.8	8.0	8.0
		15	表層	8.1	8.3	8.0	7.9
			中層	8.2	8.4	8.0	7.9
			下層	8.0	7.7	8.0	8.0
		16	表層	8.1	8.4	8.0	7.9
			中層	8.2	8.4	8.0	7.9
			下層	8.0	7.8	8.0	8.0
		17	表層	8.1	8.2	8.0	8.0
			中層	8.1	8.2	8.0	8.0
			下層	7.9	7.7	8.0	8.0
		18	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.2	8.3	8.0	8.0
			下層	8.0	7.8	8.1	8.0
		19	表層	8.0	8.3	8.0	8.0
			中層	8.1	8.3	8.0	8.0
			下層	7.9	7.8	8.0	8.0
		20	表層	8.1	8.3	8.0	8.0
			中層	8.1	8.3	8.1	8.0
				下層	7.9	7.9	8.1

注：1. 調査地点は、第 12.1.2.1-2 図を参照。
 2. 調査層は表層が海面下 0.5m、中層が海面下 2m、下層が海面下 10m (ただし、水深 10m 以浅の調査地点においては海底上 1m) を示す。調査地点 7、調査地点 16 は水深 10m 以浅である。

【修正理由】

- ② KANSONo.52～62：数値の端数処理の誤りによる分析結果の修正に伴い、調査結果を修正した。

表-4 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.2-14 [904]）

現行（準備書 p 12.1.2-14 [904]）							
第 12.1.2.1-4 表(3) 水質の調査結果（水の汚れ・調査地点別）							
調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
溶存酸素量 [DO]	mg/L	1	表層	7.8	11	7.7	9.2
			中層	8.1	8.8	7.7	9.1
			下層	5.2	1.4	6.6	8.1
			底層	4.8	2.3	6.0	8.2
修正後							
第 12.1.2.1-4 表(3) 水質の調査結果（水の汚れ・調査地点別）							
調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
溶存酸素量 [DO]	mg/L	1	表層	7.7	10	7.7	9.2
			中層	8.1	8.8	7.7	9.1
			下層	5.2	1.4	6.6	8.1
			底層	4.8	2.3	6.0	8.2

【修正理由】

- ② KANSO No.66,67 : 数値の端数処理の誤りによる分析結果の修正に伴い、調査結果を修正した。

表－5 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.2-17 [907]）

現行（準備書 p 12.1.2-17 [907]）

第 12.1.2.1-4 表(6) 水質の調査結果（水の汚れ・調査地点別）

調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
大腸菌群数	MPN / 100mL	8	表層	79	790	1,300	33
			中層	49	790	130	1,300
			下層	4	79	33	6
		13	表層	6	70	110	33
			中層	4	49	350	26
			下層	<2	23	33	<2

修正後

第 12.1.2.1-4 表(6) 水質の調査結果（水の汚れ・調査地点別）

調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
大腸菌群数	MPN / 100mL	8	表層	79	790	1,300	33
			中層	49	790	130	130 ※1
			下層	4	79	33	6
		13	表層	6	70	110	33
			中層	4	49	350	27 ※2
			下層	<2	23	33	<2

【修正理由】

- ※1 ② KANSO No.64 : 調査結果算出時に、10 倍にすべきところを誤って 100 倍にしていたため、修正した。
 ※2 ② KANSO No.65 : 大腸菌の係数表の出典を誤っていたため、修正した。

表－6 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.2-18 [908]）

現行（準備書 p 12.1.2-18 [908]）

第 12.1.2.1-5 表 環境基準との対比（水の汚れ）

調査項目	単位	海域 類型	環境 基準	調査 地点数	総検 体数	調査結果			環境基準との比較（m/n） （%）				
						最小	最大	平均	春季	夏季	秋季	冬季	年間
溶存酸素量 (DO)	mg/L	A	7.5mg/L 以上	1	16	6.7	9.4	8.0	0/4 (0.0)	3/4 (75.0)	4/4 (100.0)	0/4 (0.0)	7/16 (43.8)
		B	5mg/L 以上	5	80	0.9	9.3	7.2	0/20 (0.0)	10/20 (50.0)	0/20 (0.0)	0/20 (0.0)	10/80 (12.5)
		C	2mg/L 以上	14	224	0.8	11	6.8	0/56 (0.0)	20/56 (35.7)	0/56 (0.0)	0/56 (0.0)	20/224 (8.9)
大腸菌 群数	MPN/ 100mL	A	1,000MPN/ 100mL 以下	1	12	<2	49	18	0/3 (0.0)	0/3 (0.0)	0/3 (0.0)	0/3 (0.0)	0/12 (0.0)
		B	—	5	60	<2	230	34	-/15 (-)	-/15 (-)	-/15 (-)	-/15 (-)	-/60 (-)
		C	—	14	168	<2	2400	146	-/42 (-)	-/42 (-)	-/42 (-)	-/42 (-)	-/168 (-)

注：1. 図中番号及び類型は、第 12.1.2.1-2 図を参照。

2. 「m/n」欄の「m」は環境基準の基準値を超える検体数を、「n」は総検体数を示す。また、「m」が「-」の時は、環境基準がないことを示す。

修正後

第 12.1.2.1-5 表 環境基準との対比（水の汚れ）

調査項目	単位	海域 類型	環境 基準	調査 地点数	総検 体数	調査結果			環境基準との比較（m/n） （%）				
						最小	最大	平均	春季	夏季	秋季	冬季	年間
溶存酸素量 (DO)	mg/L	A	7.5mg/L 以上	1	16	1.2	9.4	7.6	0/4 (0.0)	3/4 (75.0)	4/4 (100.0)	0/4 (0.0)	7/16 (43.8)
		B	5mg/L 以上	5	80	0.8	9.3	7.2	0/20 (0.0)	10/20 (50.0)	0/20 (0.0)	0/20 (0.0)	10/80 (12.5)
		C	2mg/L 以上	14	224	<0.5	10	6.7	0/56 (0.0)	20/56 (35.7)	0/56 (0.0)	0/56 (0.0)	20/224 (8.9)
大腸菌 群数	MPN/ 100mL	A	1,000MPN/ 100mL 以下	1	12	<2	49	18	0/3 (0.0)	0/3 (0.0)	0/3 (0.0)	0/3 (0.0)	0/12 (0.0)
		B	—	5	60	<2	230	34	-/15 (-)	-/15 (-)	-/15 (-)	-/15 (-)	-/60 (-)
		C	—	14	168	<2	2400	130	-/42 (-)	-/42 (-)	-/42 (-)	-/42 (-)	-/168 (-)

注：1. 図中番号及び類型は、第 12.1.2.1-2 図を参照。

2. 「m/n」欄の「m」は環境基準の基準値を超える検体数を、「n」は総検体数を示す。また、「m」が「-」の時は、環境基準がないことを示す。

【修正理由】

第 12.1.2.1-4 表(3)の溶存酸素量(DO)に係る調査地点別の水質調査結果の集計の修正、及び第 12.1.2.1-4 表(3),(6)の修正に伴い、修正した。

表-7 準備書記載内容の修正内容 (準備書 p 12.1.2-23 [913])

現行 (準備書 p 12.1.2-23 [913])

第 12.1.2.1-8 表 水質の調査結果 (富栄養化)

(単位: mg/L)

調査項目	調査層	春季 (平成28年5月8日)			夏季 (平成28年8月17日)			秋季 (平成28年11月15日)			冬季 (平成28年2月24日)			年間		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
全磷 [T-P]	表層	0.015	0.083	0.036	0.025	0.21	0.092	0.037	0.056	0.046	0.018	0.072	0.042	0.015	0.21	0.054
	中層	0.014	0.039	0.029	0.050	0.16	0.092	0.039	0.052	0.045	0.022	0.072	0.043	0.014	0.16	0.052
	下層	0.011	0.034	0.022	0.028	0.14	0.099	0.035	0.045	0.040	0.008	0.070	0.034	0.008	0.14	0.049
	全層	0.011	0.083	0.029	0.025	0.21	0.095	0.035	0.056	0.043	0.008	0.072	0.040	0.008	0.21	0.052

注: 1. 調査層は表層が海面下 0.5m、中層が海面下 2 m、下層が海面下 10m (ただし、水深 10m以浅の調査地点においては海底上 1 m) を示す。
2. 最小、最大、平均は、20 地点の値を示す。

修正後

第 12.1.2.1-8 表 水質の調査結果 (富栄養化)

(単位: mg/L)

調査項目	調査層	春季 (平成28年5月8日)			夏季 (平成28年8月17日)			秋季 (平成28年11月15日)			冬季 (平成28年2月24日)			年間		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
全磷 [T-P]	表層	0.015	0.082	0.036	0.025	0.21	0.092	0.037	0.056	0.046	0.018	0.072	0.042	0.015	0.21	0.054
	中層	0.014	0.039	0.029	0.050	0.16	0.092	0.039	0.052	0.045	0.022	0.072	0.043	0.014	0.16	0.052
	下層	0.011	0.034	0.023	0.028	0.14	0.099	0.035	0.045	0.040	0.008	0.070	0.034	0.008	0.14	0.049
	全層	0.011	0.082	0.029	0.025	0.21	0.095	0.035	0.056	0.043	0.008	0.072	0.040	0.008	0.21	0.052

注: 1. 調査層は表層が海面下 0.5m、中層が海面下 2 m、下層が海面下 10m (ただし、水深 10m以浅の調査地点においては海底上 1 m) を示す。
2. 最小、最大、平均は、20 地点の値を示す。

【修正理由】

1-128,129 頁に示す第 12.1.2.1-9 表(2)の修正に伴い、修正した。

表－8 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12. 1. 2-25 [915]）

現行（準備書 p 12. 1. 25 [915]）

第 12. 1. 2. 1-9 表(2) 水質の調査結果（富栄養化・調査地点別）

調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
全 燐 〔 T ・ P 〕	mg/L	1	表層	0.054	0.10	0.047	0.051
			中層	0.033	0.078	0.046	0.071
			下層	0.034	0.11	0.041	0.027
		2	表層	0.083	0.038	0.056	0.033
			中層	0.035	0.068	0.051	0.031
			下層	0.024	0.044	0.035	0.019
		3	表層	0.045	0.063	0.043	0.037
			中層	0.029	0.064	0.039	0.034
			下層	0.021	0.081	0.041	0.026
		4	表層	0.050	0.15	0.056	0.055
			中層	0.034	0.12	0.052	0.048
			下層	0.033	0.11	0.041	0.039
		5	表層	0.047	0.092	0.051	0.040
			中層	0.033	0.098	0.042	0.036
			下層	0.023	0.096	0.042	0.036
		6	表層	0.042	0.065	0.042	0.033
			中層	0.030	0.058	0.045	0.022
			下層	0.020	0.082	0.040	0.028
		7	表層	0.032	0.21	0.047	0.072
			中層	0.032	0.16	0.048	0.072
			下層	0.029	0.14	0.045	0.042
		8	表層	0.042	0.15	0.053	0.052
			中層	0.033	0.090	0.050	0.057
			下層	0.015	0.14	0.042	0.048
		9	表層	0.035	0.067	0.044	0.031
			中層	0.027	0.066	0.041	0.032
			下層	0.021	0.078	0.041	0.026
		10	表層	0.029	0.065	0.044	0.018
			中層	0.025	0.091	0.044	0.031
			下層	0.022	0.099	0.040	0.027
		11	表層	0.022	0.066	0.039	0.038
			中層	0.026	0.067	0.039	0.035
			下層	0.017	0.028	0.036	0.070
		12	表層	0.036	0.12	0.042	0.057
			中層	0.036	0.096	0.040	0.047
			下層	0.026	0.14	0.039	0.034
		13	表層	0.034	0.080	0.056	0.051
			中層	0.039	0.13	0.049	0.048
			下層	0.023	0.10	0.038	0.032
		14	表層	0.029	0.094	0.046	0.036
			中層	0.031	0.11	0.045	0.045
			下層	0.025	0.10	0.038	0.035
		15	表層	0.031	0.12	0.042	0.052
			中層	0.036	0.14	0.045	0.068
			下層	0.023	0.13	0.039	0.061
		16	表層	0.026	0.12	0.042	0.070
			中層	0.019	0.13	0.043	0.060
			下層	0.020	0.10	0.039	0.035
		17	表層	0.015	0.098	0.041	0.029
			中層	0.029	0.097	0.042	0.038
			下層	0.026	0.14	0.039	0.031
		18	表層	0.026	0.025	0.044	0.035
			中層	0.014	0.050	0.045	0.029
			下層	0.011	0.084	0.041	0.008

修正後

第 12.1.2.1-9 表(2) 水質の調査結果 (富栄養化・調査地点別)

調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
全 磷 「 <u>T</u> ・ <u>P</u> 」	mg/L	1	表層	0.054	0.10	0.047	0.051
			中層	0.032	0.078	0.046	0.071
			下層	0.034	0.11	0.041	0.027
		2	表層	0.082	0.038	0.056	0.033
			中層	0.035	0.068	0.051	0.031
			下層	0.024	0.044	0.035	0.019
		3	表層	0.045	0.063	0.043	0.037
			中層	0.028	0.064	0.039	0.034
			下層	0.021	0.081	0.041	0.026
		4	表層	0.050	0.15	0.056	0.055
			中層	0.033	0.12	0.052	0.048
			下層	0.033	0.11	0.041	0.039
		5	表層	0.047	0.092	0.051	0.040
			中層	0.033	0.098	0.042	0.036
			下層	0.023	0.096	0.042	0.036
		6	表層	0.042	0.065	0.042	0.033
			中層	0.030	0.058	0.045	0.022
			下層	0.020	0.082	0.040	0.028
		7	表層	0.031	0.21	0.047	0.072
			中層	0.032	0.16	0.048	0.072
			下層	0.028	0.14	0.045	0.042
		8	表層	0.041	0.15	0.053	0.052
			中層	0.032	0.090	0.050	0.057
			下層	0.015	0.14	0.042	0.048
		9	表層	0.047	0.067	0.044	0.031
			中層	0.026	0.066	0.041	0.032
			下層	0.020	0.078	0.041	0.026
		10	表層	0.029	0.065	0.044	0.018
			中層	0.025	0.091	0.044	0.031
			下層	0.022	0.099	0.040	0.027
		11	表層	0.022	0.066	0.039	0.038
			中層	0.026	0.067	0.039	0.035
			下層	0.017	0.028	0.036	0.070
		12	表層	0.036	0.12	0.042	0.057
			中層	0.035	0.096	0.040	0.047
			下層	0.026	0.14	0.039	0.034
		13	表層	0.033	0.080	0.056	0.051
			中層	0.039	0.13	0.049	0.048
			下層	0.023	0.10	0.038	0.032
		14	表層	0.029	0.094	0.046	0.036
			中層	0.030	0.11	0.045	0.045
			下層	0.025	0.10	0.038	0.035
		15	表層	0.031	0.12	0.042	0.052
			中層	0.036	0.14	0.045	0.068
			下層	0.023	0.13	0.039	0.061
		16	表層	0.025	0.12	0.042	0.070
			中層	0.019	0.13	0.043	0.060
			下層	0.019	0.10	0.039	0.035
		17	表層	0.015	0.098	0.041	0.029
			中層	0.029	0.097	0.042	0.038
			下層	0.026	0.14	0.039	0.031
		18	表層	0.025	0.025	0.044	0.035
			中層	0.014	0.050	0.045	0.029
			下層	0.011	0.084	0.041	0.008

【修正理由】

② KANSONo.68~84 : 数値の端数処理の誤りによる分析結果の修正に伴い、調査結果を修正した。

表－9 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.2-26 [916]）

現行（準備書 p 12.1.2-26 [916]）

第 12.1.2.1-10 表 環境基準との対比（富栄養化：表層）

調査項目	単位	類型	環境基準	調査地点数	総検体数	調査結果 (表層)			環境基準との比較 (m/n) (%)				
						最小	最大	平均	春季	夏季	秋季	冬季	年間
全窒素 〔T-N〕	mg/L	Ⅲ	0.6mg/L 以下	6	24	0.19	0.37	0.31	0/6 (0.0)	0/6 (0.0)	0/6 (0.0)	0/6 (0.0)	0/24 (0.0)
		Ⅳ	1mg/L 以下	14	56	0.30	1.2	0.59	0/14 (0.0)	1/14 (7.1)	0/14 (0.0)	0/14 (0.0)	1/56 (1.8)
全燐 〔T-P〕	mg/L	Ⅲ	0.05mg/L 以下	6	24	0.01	0.06	0.04	0/6 (0.0)	5/6 (83.3)	0/6 (0.0)	0/6 (0.0)	5/24 (20.8)
		Ⅳ	0.09mg/L 以下	14	56	0.01	0.21	0.06	0/14 (0.0)	10/14 (71.4)	0/14 (0.0)	0/14 (0.0)	10/56 (17.9)

注：1. 図中番号及び類型は、第 12.1.2.1-2 図を参照。

2. 「m/n」欄の「m」は環境基準の基準値を超える検体数を、「n」は総検体数を示す。

修正後

第 12.1.2.1-10 表 環境基準との対比（富栄養化：表層）

調査項目	単位	類型	環境基準	調査地点数	総検体数	調査結果 (表層)			環境基準との比較 (m/n) (%)				
						最小	最大	平均	春季	夏季	秋季	冬季	年間
全窒素 〔T-N〕	mg/L	Ⅲ	0.6mg/L 以下	6	24	0.19	0.51	0.37	0/6 (0.0)	0/6 (0.0)	0/6 (0.0)	0/6 (0.0)	0/24 (0.0)
		Ⅳ	1mg/L 以下	14	56	0.30	1.2	0.59	0/14 (0.0)	1/14 (7.1)	0/14 (0.0)	0/14 (0.0)	1/56 (1.8)
全燐 〔T-P〕	mg/L	Ⅲ	0.05mg/L 以下	6	24	0.018	0.066	0.040	0/6 (0.0)	5/6 (83.3)	0/6 (0.0)	0/6 (0.0)	5/24 (20.8)
		Ⅳ	0.09mg/L 以下	14	56	0.015	0.21	0.060	0/14 (0.0)	10/14 (71.4)	0/14 (0.0)	0/14 (0.0)	10/56 (17.9)

注：1. 図中番号及び類型は、第 12.1.2.1-2 図を参照。

2. 「m/n」欄の「m」は環境基準の基準値を超える検体数を、「n」は総検体数を示す。

※準備書 p12.4-80 [1424]、要約書 p.104 も同様に修正し、評価書へ反映します。

【修正理由】

第 12.1.2.1-9 表 (2)の修正、及び第 12.1.2.1-9 表 (1),(2)の全窒素、全燐に係る調査地点別の水質調査結果の集計の修正に伴い、修正した。

表-10 準備書記載内容の修正内容 (準備書 p 12.1.2-29 [919])

現行 (準備書 p 12.1.2-29 [919])

第 12.1.2.1-13 表 水質の調査結果(水の濁り)

(単位: mg/L)

調査項目	調査層	春季 (平成28年5月8日)			夏季 (平成28年8月17日)			秋季 (平成28年11月15日)			冬季 (平成28年2月24日)			年間		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
浮遊物質 [SS]	表層	2	3	2	3	8	5	2	4	3	2	7	3	2	8	3
	中層	2	5	3	4	9	6	2	4	3	2	5	3	2	9	4
	下層	2	7	3	2	5	3	2	5	3	2	6	4	2	7	3
	全層	2	7	3	2	9	5	2	5	3	2	7	3	2	9	3

注: 表層が海面下 0.5m、中層が海面下 2 m、下層が海面下 10m (ただし、水深 10m 以浅の調査地点においては海底上 1 m) を示す。

修正後

第 12.1.2.1-13 表 水質の調査結果(水の濁り)

(単位: mg/L)

調査項目	調査層	春季 (平成28年5月8日)			夏季 (平成28年8月17日)			秋季 (平成28年11月15日)			冬季 (平成28年2月24日)			年間		
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均
浮遊物質 [SS]	表層	2	3	2	3	8	5	2	4	3	2	7	3	2	8	3
	中層	2	5	3	4	9	6	2	4	3	2	5	3	2	9	3
	下層	2	7	3	2	5	3	2	5	3	2	6	4	2	7	3
	全層	2	7	3	2	9	5	2	5	3	2	7	3	2	9	3

注: 表層が海面下 0.5m、中層が海面下 2 m、下層が海面下 10m (ただし、水深 10m 以浅の調査地点においては海底上 1 m) を示す。

※準備書 p12.4-26 [1370]、p12.4-32 [1376]、要約書 p.50、p.55 も同様に修正し、評価書へ反映します。

【修正理由】

1-132 頁に示す第 12.1.2.1-14 表の修正に伴い、修正した。

表-11 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.2-30 [920]）

現行（準備書 p 12.1.2-30 [920]）							
第 12.1.2.1-14 表 水質の調査結果（水の濁り・調査地点別）							
調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
浮遊物質 質量 [SS]	mg/L	13	表層	2	6	2	4
			中層	3	7	2	3
			下層	3	5	2	3
修正後							
第 12.1.2.1-14 表 水質の調査結果（水の濁り・調査地点別）							
調査項目	単位	調査地点	調査層	春季 (平成 28 年 5 月 8 日)	夏季 (平成 28 年 8 月 17 日)	秋季 (平成 28 年 11 月 15 日)	冬季 (平成 28 年 2 月 24 日)
浮遊物質 質量 [SS]	mg/L	13	表層	2	6	2	4
			中層	3	7	2	2
			下層	3	5	2	3

【修正理由】

- ② KANSONo.63：数値の端数処理の誤りによる分析結果の修正に伴い、調査結果を修正した。

表-12 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.2-101 [991]）

現行（準備書 p 12.1.2-101 [991]）	
第 12.1.2.1-16 図	汚濁限界粒子径 (d) と汚濁限界流速 (V _c) の関係
	(1) Ingersol 式 $V_c = \frac{1}{1.2} V \sqrt{\frac{8}{f}}$
修正後	
第 12.1.2.1-16 図	汚濁限界粒子径 (d) と汚濁限界流速 (V _c) の関係
	(1) Ingersol 式 $V_c = \frac{1}{1.2} V \sqrt{\frac{8}{f}}$

【修正理由】

- ④ 「=」の重複を修正した。

表-13 準備書記載内容の修正内容 (準備書 p 12.1.2-110 [1000])

現行 (準備書 p 12.1.2-110 [1000])

第 12.1.2.1-23 表 排水量及び排出負荷量

項目		現状		将来		
		既設設備		既設設備		新設発電所
		神戸製鉄所	神戸発電所	神戸製鉄所	神戸発電所	
排水量 (m ³ /日)		7,680	1,680	6,985	1,680	1,890
負荷量 (kg/日)	化学的酸素要求量 (COD)	88.0	8.7	27.0	8.7	9.5
	全窒素 (T-N)	133.2	33.6	37.7	33.6	37.8
	全燐 (T-P)	13.56	1.70	0.35	1.70	1.89

注：将来の神戸製鉄所の排水量及び負荷量については、高炉等の上工程設備休止後の数値である。

修正後

第 12.1.2.1-23 表 排水量及び排出負荷量

項目		現状		将来		
		既設設備		既設設備		新設発電所
		神戸製鉄所	神戸発電所	神戸製鉄所	神戸発電所	
排水量 (m ³ /日)		7,680	1,680	6,985	1,680	1,890
負荷量 (kg/日)	化学的酸素要求量 (COD)	88.0	8.7	27.0	8.7	9.5
	全窒素 (T-N)	133.2	33.6	37.7	33.6	37.8
	全燐 (T-P)	13.53	1.70	0.35	1.70	1.89

注：将来の神戸製鉄所の排水量及び負荷量については、高炉等の上工程設備休止後の数値である。

【修正理由】

- ② 「瀬戸内海環境保全特別措置法」に基づく届出に記載の汚濁負荷量を予測諸元として用いており、一部の排水口の汚濁負荷量を誤って二重に加算したことにより、集計値を誤って記載した。

表-14 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12. 1. 2-112 [1002]）

現行（準備書 p 12. 1. 2-112 [1002]）
第 12. 1. 2. 1-24 表(1) 化学的酸素要求量の拡散予測結果
注：2. 化学的酸素要求量のバックグラウンド濃度は、公共用水域水質測定結果（年間 75% 値）の平成 23～27 年度における表中層等量の平均値を用いた。
第 12. 1. 2. 1-24 表(2) 全窒素拡散予測結果
注：2. 全窒素のバックグラウンド濃度は、公共用水域水質測定結果（年平均値）の平成 23～27 年度における表層及び表中層等量の平均値を用いた。
第 12. 1. 2. 1-24 表(3) 全燐拡散予測結果
注：2. 全燐のバックグラウンド濃度は、公共用水域水質測定結果（年平均値）の平成 23～27 年度における表層及び表中層等量の平均値を用いた。
修正後
第 12. 1. 2. 1-24 表(1) 化学的酸素要求量の拡散予測結果
注：2. 化学的酸素要求量のバックグラウンド濃度は、「環境白書—平成 24～28 年度版—（兵庫県）」の資料編に記載の公共用水域水質測定結果（年間 75% 値）の平成 23～27 年度における表中層等量の平均値を用いた。
第 12. 1. 2. 1-24 表(2) 全窒素の拡散予測結果
注：2. 全窒素のバックグラウンド濃度は、「環境白書—平成 24～28 年度版—（兵庫県）」の資料編に記載の公共用水域水質測定結果（年平均値）の平成 23～27 年度における表層及び表中層等量の平均値を用いた。
第 12. 1. 2. 1-24 表(3) 全燐の拡散予測結果
注：2. 全燐のバックグラウンド濃度は、「環境白書—平成 24～28 年度版—（兵庫県）」の資料編に記載の公共用水域水質測定結果（年平均値）の平成 23～27 年度における表層及び表中層等量の平均値を用いた。

※準備書 p12. 4-81 [1425]、要約書 p. 105 も同様に修正し、評価書へ反映します。

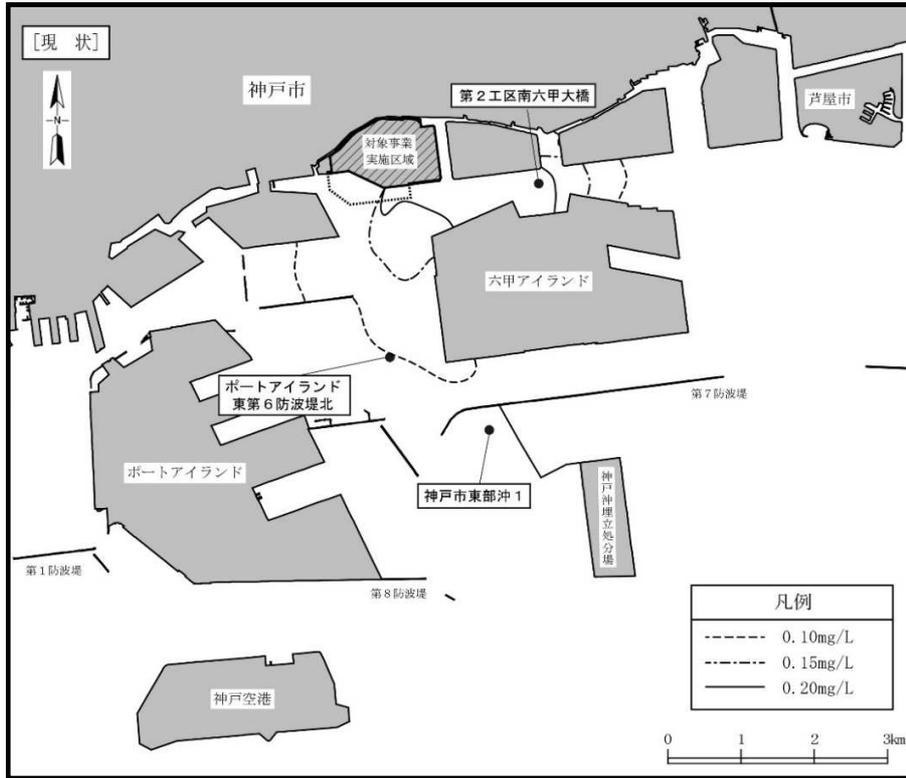
【修正理由】

- ④ より適切な表現とした。

表-15 準備書記載内容の修正内容 (準備書 p 12.1.2-115 [1005])

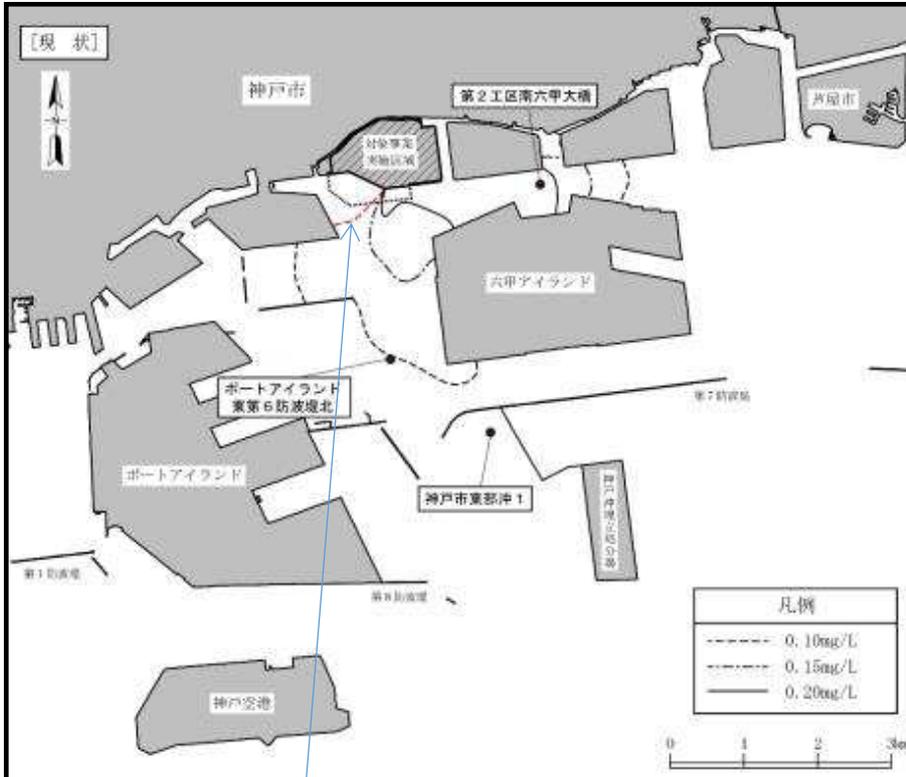
現行 (準備書 p 12.1.2-115 [1005])

第 12.1.2.1-23 図(1) 全室素の寄与濃度の予測結果(現状：既設設備)



修正後

第 12.1.2.1-23 図(1) 全室素の寄与濃度の予測結果(現状：既設設備)



【修正理由】

- ② KANSO No.12 : 0.10mg/L のコンター(破線)の一部を記載していなかった。

12.1.3 動物

表－1 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.3-16 [1046]）

現行（準備書 p 12.1.3-16 [1046]）
<p>I. 調査方法</p> <p>(7) 一般採集調査</p> <p>調査ルートを踏査し、スウィーピング法やビーディング法等により採集した種及び個体数等を記録した。</p>
修正後
<p>I. 調査方法</p> <p>(7) 一般採集調査</p> <p>調査ルートを踏査し、スウィーピング法やビーティング法等により採集した種及び個体数等を記録した。</p>

【修正理由】

- ⑤ 文言を誤って記載した。

表－2 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.3-58 [1088]）

現行（準備書 p 12.1.3-58 [1088]）
<p>I. サシバ</p> <p>(7) 分布・生態的特徴</p> <p>ほぼ日本全土の平野部の農耕地、市街地、公園、河川、神社や寺院などに生息する。 低山から丘陵の森林に生息し、周辺のなどの開けた環境で狩りをする。ヘビを好んで食べるほか、ネズミ、モグラ、小鳥、カエルや、バッタなどの昆虫もよく食べる。</p>
修正後
<p>I. サシバ</p> <p>(7) 分布・生態的特徴</p> <p>夏鳥として3～4月ごろ渡来し、九州から青森県にかけて繁殖する。 低山から丘陵の森林に生息し、周辺の水田などの開けた環境で狩りをする。ヘビを好んで食べるほか、ネズミ、モグラ、小鳥、カエルや、バッタなどの昆虫もよく食べる。</p>

【修正理由】

- ② KANSONo.13：出典からの引用時に、誤ってドバトの特徴を記載した。

表－3 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.3-108 [1138]）

現行（準備書 p 12.1.3-108 [1138]）			
第 12.1.3.2-13 表(1) 重要な種の確認状況			
種名	調査項目	季節	確認状況
サルボウガイ	底生生物 (マクロベントス)	春季	調査地点 11 において 7 個体/m ²
		夏季	調査地点 45 において 7 個体/m ²
	底生生物 (メガロベントス)	春季	調査地点 C において 2 個体、31.2g
		夏季	調査地点 C において 1 個体、37.1g
修正後			
第 12.1.3.2-13 表(1) 重要な種の確認状況			
種名	調査項目	季節	確認状況
サルボウガイ	底生生物 (マクロベントス)	春季	調査地点 11 において 7 個体/m ²
		夏季	調査地点 13 において 7 個体/m ²
	底生生物 (メガロベントス)	春季	調査地点 C において 2 個体、31.2g
		夏季	調査地点 C において 1 個体、37.1g

【修正理由】

- ② KANSONo.14 : 誤って現地調査で使用していた社内の地点番号を記載した。

12.1.4 植物

表－1 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.4-4 [1152]）

現行（準備書 p 12.1.4-4 [1152]）
<p>ウ. 調査結果</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺における現存植生は、第 3.1.5-4 図のとおりである。対象事業実施区域及びその近傍は工場地帯となっており、その周辺の平地では市街地が広く分布している。対象事業実施区域の北側の山地ではシイ・カシ二次林、モチツツジーアカマツ群集が優占している。</p>
修正後
<p>ウ. 調査結果</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺における現存植生は、第 3.1.5-4 図のとおりである。対象事業実施区域及びその近傍は工場地帯となっており、その周辺の平地では市街地が広く分布している。対象事業実施区域の北側の山地ではアベマキーコナラ群集、モチツツジーアカマツ群集が優占している。</p>

【修正理由】

- ② KANSONo.15 : 第 3.1.5-4 図 現存植生（緑同色系）の凡例を読み違えて記載した。

12.1.5 生態系

表-1 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.5-1 [1201]）

現行（準備書 p 12.1.5-1 [1201]）		
第 12.1.5-1 表 動植物の概要（既存資料調査）		
項目	確認状況	
植物	現存植生	対象事業実施区域及びその近傍：工場地帯 対象事業実施区域周辺の平地：市街地が広く分布 対象事業実施区域の北側の山地：シイ・カシ二次林、モチツツジーアカマツ群集が優占
	植物相	クスノキ、ムクノキ、アキニレ、トウネズミモチ、シャリンバイ、トベラ、タチバナモドキ、アキノエノコログサ、カタバミ、イヌノフグリ等（1,434種）
修正後		
第 12.1.5-1 表 動植物の概要（既存資料調査）		
項目	確認状況	
植物	現存植生	対象事業実施区域及びその近傍：工場地帯 対象事業実施区域周辺の平地：市街地が広く分布 対象事業実施区域の北側の山地：アベマキーコナラ群集、モチツツジーアカマツ群集が優占
	植物相	クスノキ、ムクノキ、アキニレ、トウネズミモチ、シャリンバイ、トベラ、タチバナモドキ、アキノエノコログサ、カタバミ、イヌノフグリ等（1,434種）

【修正理由】

- ② KANSO No.16：第 3.1.5-4 図 現存植生（緑同色系）の凡例を読み違えて記載した。

表－2 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.5-15 [1215]）

現行（準備書 p 12.1.5-15 [1215]）

第 12.1.5-12 表 調査地点の配置状況及び調査時間

調査日	調査地点										
	st.1	st.2	st.3	st.4	st.5	st.6	st.7	st.8	st.9	st.10	st.11
平成 27 年											
5月19日		8:00～ 16:00	8:00～ 16:00					8:00～ 16:00			
6月22日		8:00～ 12:00	8:00～ 16:00				12:15～ 16:00	8:00～ 16:00			

修正後

第 12.1.5-12 表 調査地点の配置状況及び調査時間

調査日	調査地点										
	st.1	st.2	st.3	st.4	st.5	st.6	st.7	st.8	st.9	st.10	st.11
平成 27 年											
5月19日		8:00～ 16:00						8:00～ 16:00	8:00～ 16:00		
6月22日		8:00～ 12:00					12:15～ 16:00	8:00～ 16:00	8:00～ 16:00		

【修正理由】

- ② KANSONo.17：調査を実施した地点を誤って記載した（st.3→st.9）。

表－3 準備書記載内容の修正内容（準備書 p12.1.5-29 [1229]）

現行（準備書 p12.1.5-29 [1229]）

(イ) チョウゲンボウの好適採餌環境指数の算出

好適採餌環境指数の算出手順に基づき、チョウゲンボウの採餌に係る各指数を算出した。

環境類型区分毎のチョウゲンボウの餌量の指数は第 12.1.5-17 表、ハンティング行動の指数は第 12.1.5-18 表のとおりである。これらの指数と各メッシュにおける環境類型区分の面積比から求めた好適採餌環境指数は第 12.1.5-19 表のとおりである。また、好適採餌環境図は第 12.1.5-9 図のとおりである。

チョウゲンボウの餌量の指数は、餌量の最も多い樹林地を 1 とし、次いで水域が 0.38、市街地が 0.23、草地在 0.17、裸地在 0.06 となった。

チョウゲンボウのハンティング行動の指数は、ハンティング行動頻度が最多であった裸地在を 1 とし、次いで草地在が 0.65、樹林地が 0.17、市街地在が 0.01 となった。また、水域は 0 であった。

各メッシュにおける好適採餌環境指数は、G5メッシュを 1 とし、次いでG4が 0.77、I7が 0.63、I9が 0.38 となった。G5及びG4は御影浜町及びその周辺、I7及びI9は六甲アイランドである。対象事業実施区域を含むD4～D6、E4～E6、F4～F6は0～0.25 であった。

第 12.1.5-17 表 チョウゲンボウの餌量の指数

環境類型区分	餌量 (g/ha)	餌量の指数
樹林地	1,116.2	1.00
草地	192.9	0.17
裸地	66.1	0.06
市街地	260.3	0.23
水域	426.1	0.38

第 12.1.5-18 表 チョウゲンボウのハンティング行動の指数

環境類型区分	ハンティング 行動回数	出現範囲内 面積 (ha)	ハンティング 行動頻度	ハンティング 行動の指数
樹林地	5	26.88	0.19	0.17
草地	3	4.10	0.73	0.65
裸地	7	6.26	1.12	1.00
市街地	8	666.65	0.01	0.01
水域	0	255.56	0.00	0.00
合計	23	959.5	—	—

修正後

(イ) チョウゲンボウの好適採餌環境指数の算出

好適採餌環境指数の算出手順に基づき、チョウゲンボウの採餌に係る各指数を算出した。

環境類型区分毎のチョウゲンボウの餌量の指数は第 12.1.5-17 表、ハンティング行動の指数は第 12.1.5-18 表のとおりである。これらの指数と各メッシュにおける環境類型区分の面積比から求めた好適採餌環境指数は第 12.1.5-19 表のとおりである。また、好適採餌環境図は第 12.1.5-9 図のとおりである。

チョウゲンボウの餌量の指数は、餌量の最も多い樹林地を 1 とし、次いで水域が 0.38、市街地が 0.23、草地在 0.17、裸地在 0.06 となった。

チョウゲンボウのハンティング行動の指数は、ハンティング行動頻度が最多であった裸地を 1 とし、次いで草地在 0.76、樹林地が 0.19、市街地在 0.01 となった。また、水域は 0 であった。

各メッシュにおける好適採餌環境指数は、G 5 メッシュを 1 とし、次いで G 4 が 0.76、I 7 が 0.66、I 9 が 0.41 となった。G 5 及び G 4 は御影浜町及びその周辺、I 7 及び I 9 は六甲アイランドである。対象事業実施区域を含む D 4～D 6、E 4～E 6、F 4～F 6 は 0～0.26 であった。

第 12.1.5-17 表 チョウゲンボウの餌量の指数

環境類型区分	餌量 (g/ha)	餌量の指数
樹林地	1,116.2	1.00
草地	192.9	0.17
裸地	66.1	0.06
市街地	260.3	0.23
水域	426.1	0.38

第 12.1.5-18 表 チョウゲンボウのハンティング行動の指数

環境類型区分	ハンティング 行動回数	出現範囲※1 面積 (ha)	ハンティング 行動頻度	ハンティング 行動の指数
樹林地	5	24.26	0.21	0.19
草地	3	3.54	0.85	0.76
裸地	7	6.26	1.12	1.00
市街地	8	619.15	0.01	0.01
水域	0	253.36	0.00	0.00
合計	23	906.57	—	—

※準備書 p12.4-44 [1388]、要約書 p.68 も同様に修正し、評価書へ反映します。

【修正理由】

※1：④ より適切な表現とした。

それ以外：② KANSONo.18：チョウゲンボウの出現範囲面積の修正に伴い、文章、及び表中の数値を修正した。
なお、予測及び評価の結果は正しく記載されている。

表－4 準備書記載内容の修正内容（準備書 p12.1.5-30 [1230]）

現行（準備書 p12.1.5-30 [1230]）

第 12.1.5-19 表 各メッシュにおける好適採餌環境指数

メッシュ 番号	好適採餌 環境指数	メッシュ 番号	好適採餌 環境指数	メッシュ 番号	好適採餌 環境指数
A1	0.06	D1	0.11	G1	0.06
A2	0.05	D2	0.05	G2	0.05
A3	0.10	D3	0.05	G3	0.05
A4	0.10	D4	0.08	G4	0.77
A5	0.08	D5	0.25	G5	1.00
A6	0.05	D6	0.00	G6	0.00
A7	0.03	D7	0.02	G7	0.04
A8	0.00	D8	0.00	G8	0.15
A9	0.00	D9	0.00	G9	0.05
B1	0.11	E1	0.08	H1	0.06
B2	0.10	E2	0.12	H2	0.14
B3	0.13	E3	0.06	H3	0.05
B4	0.30	E4	0.07	H4	0.28
B5	0.11	E5	0.09	H5	0.05
B6	0.04	E6	0.02	H6	0.01
B7	0.05	E7	0.00	H7	0.19
B8	0.01	E8	0.00	H8	0.15
B9	0.00	E9	0.00	H9	0.25
C1	0.09	F1	0.11	I1	0.07
C2	0.06	F2	0.12	I2	0.06
C3	0.11	F3	0.09	I3	0.07
C4	0.13	F4	0.05	I4	0.10
C5	0.18	F5	0.05	I5	0.03
C6	0.13	F6	0.01	I6	0.00
C7	0.20	F7	0.00	I7	0.63
C8	0.00	F8	0.01	I8	0.13
C9	0.00	F9	0.01	I9	0.38

修正後

第 12.1.5-19 表 各メッシュにおける好適採餌環境指数

メッシュ 番号	好適採餌 環境指数	メッシュ 番号	好適採餌 環境指数	メッシュ 番号	好適採餌 環境指数
A1	0.05	D1	0.11	G1	0.06
A2	0.05	D2	0.05	G2	0.05
A3	0.10	D3	0.05	G3	0.05
A4	0.10	D4	0.08	G4	0.76
A5	0.07	D5	0.26	G5	1.00
A6	0.04	D6	0.00	G6	0.00
A7	0.03	D7	0.02	G7	0.04
A8	0.00	D8	0.00	G8	0.16
A9	0.00	D9	0.00	G9	0.05
B1	0.11	E1	0.08	H1	0.06
B2	0.10	E2	0.12	H2	0.15
B3	0.13	E3	0.05	H3	0.05
B4	0.33	E4	0.07	H4	0.27
B5	0.11	E5	0.09	H5	0.05
B6	0.04	E6	0.02	H6	0.01
B7	0.05	E7	0.00	H7	0.20
B8	0.01	E8	0.00	H8	0.15
B9	0.00	E9	0.00	H9	0.27
C1	0.09	F1	0.11	I1	0.06
C2	0.05	F2	0.12	I2	0.05
C3	0.11	F3	0.09	I3	0.07
C4	0.13	F4	0.05	I4	0.10
C5	0.19	F5	0.05	I5	0.03
C6	0.14	F6	0.01	I6	0.00
C7	0.21	F7	0.00	I7	0.66
C8	0.00	F8	0.01	I8	0.13
C9	0.00	F9	0.01	I9	0.41

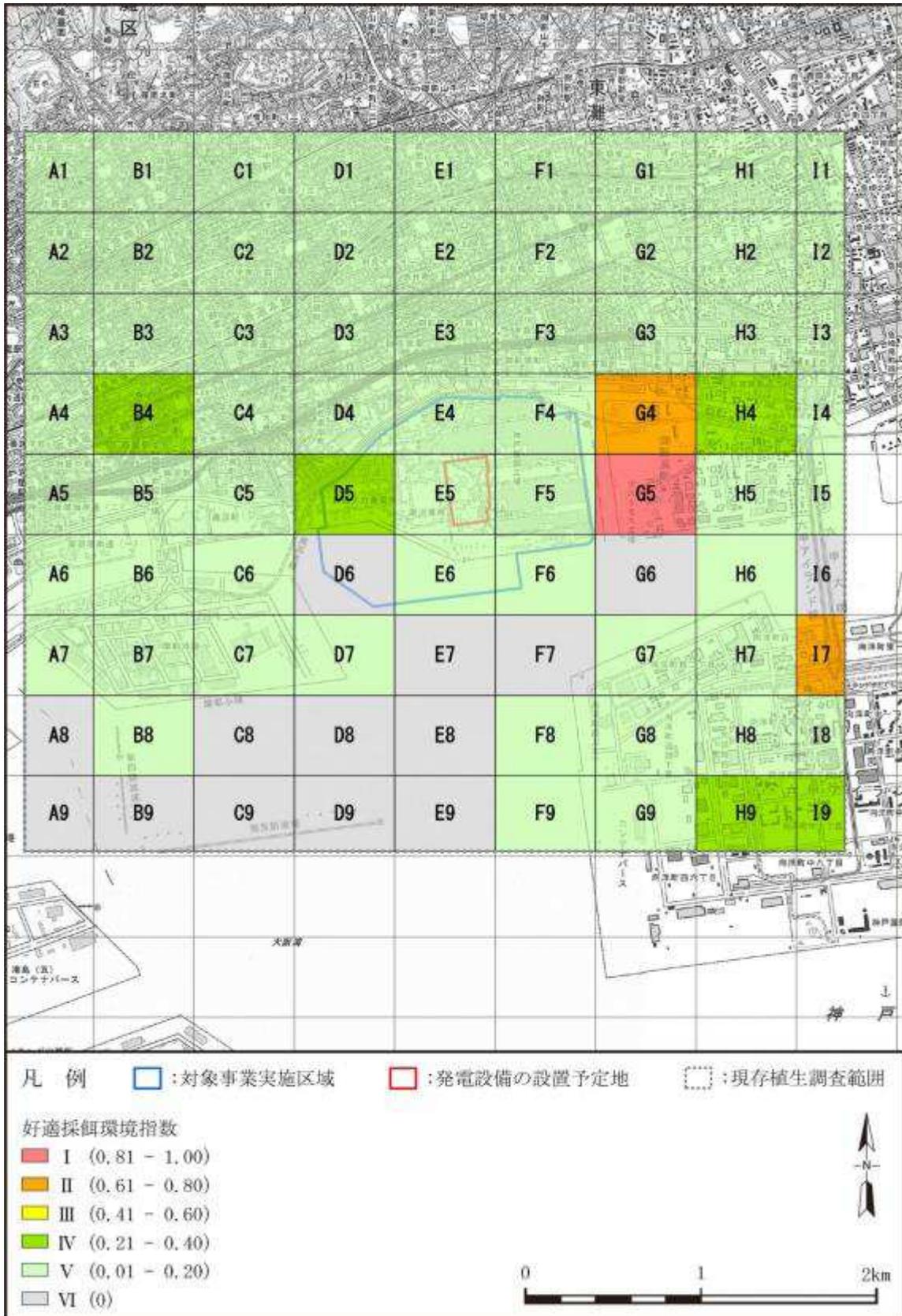
【修正理由】

- ② KANSO№.18 : チョウゲンボウの出現範囲面積の修正に伴い、第 12.1.5-19 表の数値を修正した。
 なお、予測及び評価の結果は正しく記載されている。

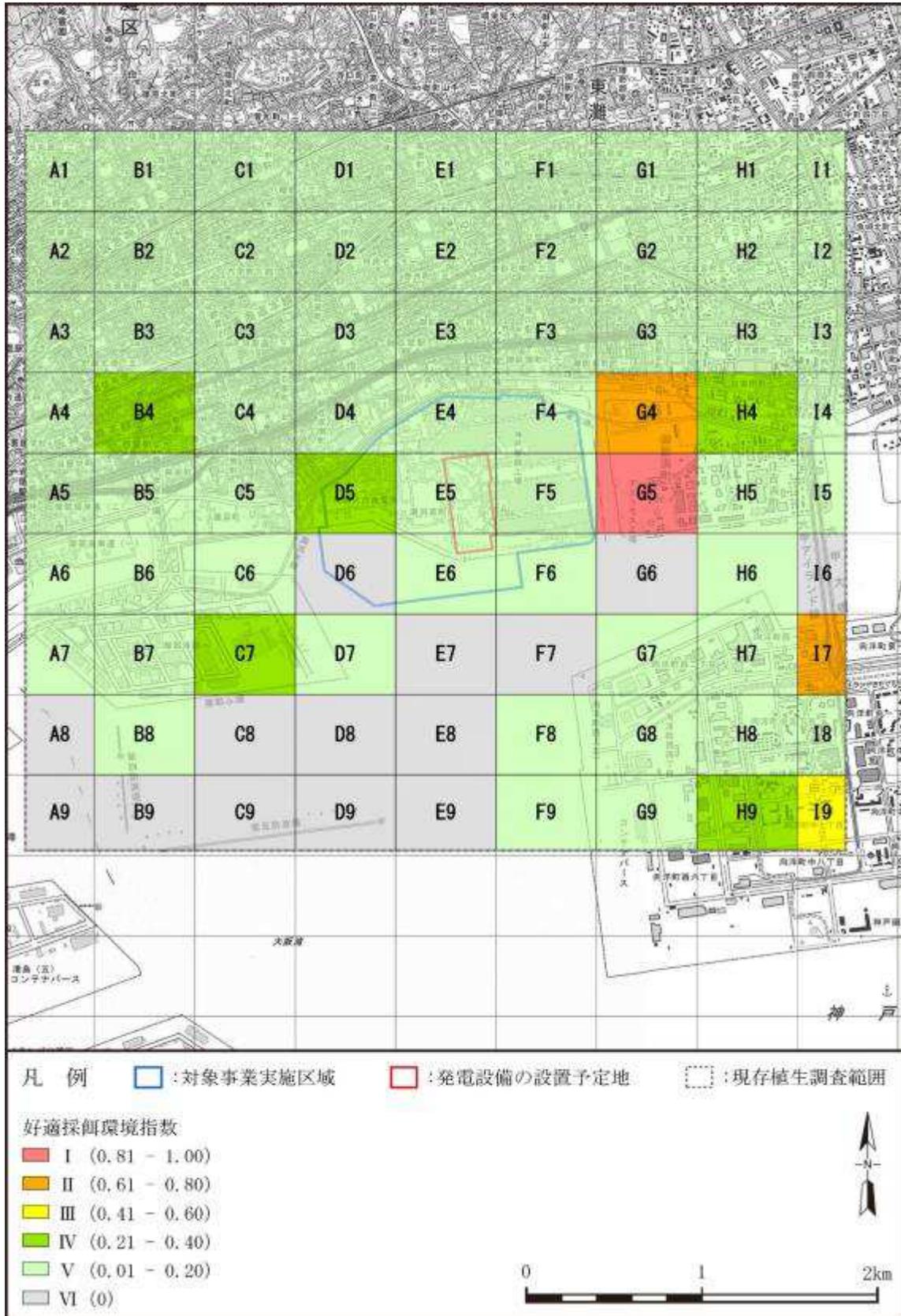
表-5 準備書記載内容の修正内容 (準備書 p12.1.5-31 [1231])

現行 (準備書 p12.1.5-31 [1231])

第 12.1.5-9 図 チョウゲンボウの好適採餌環境図



第 12.1.5-9 図 チョウゲンボウの好適採餌環境図



【修正理由】

第 12.1.5-19 表の数値の修正に伴い、図を修正した。なお、予測及び評価の結果は正しく記載されている。

表－6 準備書記載内容の修正内容（準備書 p12.1.5-53 [1253]）

現行（準備書 p12.1.5-53 [1253]）
<p>④ 予測及び評価の結果</p> <p>a. 工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用</p> <p>(a) 造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在</p> <p>7. 環境保全措置</p> <p>工事の実施及び施設の存在に伴う重要な種及び重要な群落への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。</p> <p style="text-align: center;">（中略）</p> <p>イ. 予測地域</p> <p>対象事業実施区域とした。</p> <p>ウ. 予測対象時期</p> <p>工事期間中の造成等の施工による陸生植物の生育に係る環境影響が最大となる時期及び運転開始後に陸生植物の生育環境が安定する時期とした。</p> <p>エ. 予測手法</p> <p>環境保全措置を踏まえ、文献その他の資料調査及び現地調査結果に基づき、分布及び生育環境の改変の程度を把握した上で、重要な種及び重要な群落への影響を予測した。</p>
修正後
<p>④ 予測及び評価の結果</p> <p>a. 工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用</p> <p>(a) 造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在</p> <p>7. 環境保全措置</p> <p>工事の実施及び施設の存在に伴う <u>地域を特徴づける生態系（上位性注目種のチョウゲンボウ及び典型性注目種のカワラヒワ）</u> への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。</p> <p style="text-align: center;">（中略）</p> <p>イ. 予測地域</p> <p>対象事業実施区域 <u>及びその周辺</u> とした。</p> <p>ウ. 予測対象時期</p> <p>工事期間中の造成等の施工による <u>注目種等の生息・生育環境</u> への影響が最大となる時期及び運転開始後に <u>注目種等の生息・生育環境</u> が安定する時期とした。</p> <p>エ. 予測手法</p> <p>環境保全措置を踏まえ、文献その他の資料調査及び現地調査結果に基づき、<u>注目種等の分布及び生息・生育環境の改変の程度</u> を把握した上で、<u>地域を特徴づける生態系</u> への影響を予測した。</p>

【修正理由】

- ② KANSO№.19：誤って植物（陸生）に係る環境保全措置及び予測手法の内容を記載した。

12.1.8 廃棄物等

表－1 準備書記載内容の修正内容（準備書 p12.1.8-7 [1305]）

現行（準備書 p12.1.8-7 [1305]）
これらの環境保全措置を講じることにより、発生土約 44.5m ³ のうち、約 39 万m ³ は、埋め戻し及び盛土として利用し、残土の発生を低減する。また、有効利用が困難な浚渫土については、処理方法に応じた関係法令に基づき適正に処理する。
修正後
これらの環境保全措置を講じることにより、発生土約 44.5 万m ³ のうち、約 39 万m ³ は、埋め戻し及び盛土として利用し、残土の発生を低減する。また、有効利用が困難な浚渫土については、処理方法に応じた関係法令に基づき適正に処理する。

※準備書 p12.4-53 [1397]、要約書 p.77 も同様に修正し、評価書へ反映します。

【修正理由】

- ② KANSO No.20 : 単位を誤って記載した。

12.1.9 温室効果ガス等

表－1 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.1.9-3 [1309]）

現行（準備書 p 12.1.9-3 [1309]）
<p>当社は、発電事業者として、「エネルギーの使用の合理化に関する法律（昭和 54 年法律第 49 号）」のベンチマーク指標の 2030 年度の目標達成に向けて計画的に取り組み、確実に遵守する。</p> <p>また、CCS（Carbon Dioxide Capture and Strage：二酸化炭素回収・貯留）については、「地球温暖化対策と経済成長を両立させながら、長期目標として 2050 年までに 80% の温室効果ガス排出削減」を目指すとの国の長期目標との整合性を確保するための革新的技術であるが、現時点では実証段階の技術であり、実用化に向けては、法制度の整備、技術開発によるコスト低減や高効率化、貯留に際しての社会的受容性の構築等の解決すべき課題があり、事業者として現時点具体的な検討ができる段階ではないと認識している。局長級取りまとめにおいて、</p>
修正後
<p>当社は、発電事業者として、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（昭和 54 年法律第 49 号）」のベンチマーク指標の 2030 年度の目標達成に向けて計画的に取り組み、確実に遵守する。</p> <p>また、CCS（Carbon Dioxide Capture and Storage：二酸化炭素回収・貯留）については、「地球温暖化対策と経済成長を両立させながら、長期目標として 2050 年までに 80% の温室効果ガス排出削減」を目指すとの国の長期目標との整合性を確保するための革新的技術であるが、現時点では実証段階の技術であり、実用化に向けては、法制度の整備、技術開発によるコスト低減や高効率化、貯留に際しての社会的受容性の構築等の解決すべき課題があり、事業者として現時点において具体的な検討ができる段階ではないと認識している。局長級取りまとめにおいて、</p>

※準備書 p12.4-79 [1423]、要約書 p.103 も同様に修正し、評価書へ反映します。

【修正理由】

- ⑤ 文言を誤って記載した。

12.4 環境影響の総合的な評価

表-1 準備書記載内容の修正内容（準備書 p 12.4-125 [1469]）

現行（準備書 p 12.4-125 [1469]）						
(予測結果の概要) 予測地点における将来交通量は、下表のとおりである。						
予測地点における現況と将来の交通量（定期点検時）						
（単位：台）						
予測地点	路線名 (アクセスルート)	現況交通量	将来交通量			工事関係車両 の割合 (%) ②/③
		一般車両	一般車両 ①	発電所関係車両 ②	合計 ③=①+②	
A	市道灘浜住吉川線	12,727	12,727	150	12,877	1.2
B	市道灘浜住吉川線 (運河南側)	11,867	11,867	197	12,064	1.6
修正後						
(予測結果の概要) 予測地点における将来交通量は、下表のとおりである。						
予測地点における現況と将来の交通量（定期点検時）						
（単位：台）						
予測地点	路線名 (アクセスルート)	現況交通量	将来交通量			発電所関係車両 の割合 (%) ②/③
		一般車両	一般車両 ①	発電所関係車両 ②	合計 ③=①+②	
A	市道灘浜住吉川線	12,727	12,727	150	12,877	1.2
B	市道灘浜住吉川線 (運河南側)	11,867	11,867	197	12,064	1.6

※要約書 p. 149 も同様に修正し、評価書へ反映します。

【修正理由】

- ⑤ 文言を誤って記載した。

第 13 章 環境影響評価を委託した事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

表－1 準備書記載内容の修正内容（準備書 p13-1 [1473]）

現行（準備書 p13-1 [1473]）		
第 13-1 表(1) 環境影響評価の一部業務の委託先		
環境影響評価に関する委託業務内容	事業者の名称等	
大気環境－騒音・振動・低周波音 （工事用資材等の搬出入、建設機 械の稼働、資材等の搬出入の予測 評価）	株式会社環境総合テクノス 代表取締役社長 中山 崇 大阪府大阪市中央区安土町 1丁目3番5号	—
	株式会社コベルコ科研 代表取締役社長 宮脇 新也 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1丁目5番1号	—
修正後		
第 13-1 表(1) 環境影響評価の一部業務の委託先		
環境影響評価に関する委託業務内容	事業者の名称等	
大気環境－騒音・振動・低周波音 （予測評価）	株式会社環境総合テクノス 代表取締役社長 中山 崇 大阪府大阪市中央区安土町 1丁目3番5号	—
	株式会社コベルコ科研 代表取締役社長 宮脇 新也 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1丁目5番1号	—

【修正理由】

- ④ 文言を誤って記載した。

2. 補足説明資料の記載内容の修正について

自主検証の結果等により、下記「補足説明資料」の記載内容について、誤り等が確認されたため、以下のとおり修正いたします。なお、網掛けは、修正箇所を示しています。

神戸市 環境影響評価審査会	兵庫県 環境影響評価審査会 神鋼神戸製鉄所 火力発電所部会	資料名	頁
第 158 回 資料 8 補足説明資料 (大気質関係)	平成 29 年 9 月 22 日開催 資料 3 補足説明資料 (大気質関係)	2. 「環境の保全と創造に関する条例（平成 7 年兵庫県条例第 28 号）」において規制基準が定められている有害物質について	2-1～ 2-13
		3. 高層建築物の高層階への影響について	2-14
		5. 石炭や石炭灰等を輸送する船舶の影響について	2-15～ 2-16
		6. 新設建物による既設煙源からの影響について	2-17～ 2-20
資料 9	資料 4	煙突からの白煙の視認状況について	2-21
第 160 回 資料 10	平成 29 年 8 月 25 日開催 資料 2 - 1	生態系を考慮した 3 次元モデルによる解析結果について	2-22～ 2-39
第 161 回 資料 18 補足説明資料 (大気質関係 2)	—	4. 高層建築物の高層階への影響（1 時間値）について	2-40～ 2-43
		6. 二酸化窒素の環境基準の年平均相当値の表記について	2-44
		8. 水銀について	2-45～ 2-46
		10. 排煙処理設備の経緯ならびに稼働後のばい煙の排出濃度、年間総排出量について	2-47
資料 19 補足説明資料 (水環境、動物・ 植物関係)	—	3. 【動物】都賀川におけるアユ調査結果の整理	2-48
		4. 【動物・植物】周辺海域における海生生物調査結果の整理	2-49
第 162 回 資料 21 補足説明資料 (大気質関係 3)	—	1. 排煙処理設備の経緯ならびに稼働後のばい煙の排出濃度、年間総排出量について（追加説明）	2-50
		2. 水銀排出濃度に関する他社発電所との比較について	2-51～ 2-52
—	平成 29 年 10 月 2 日開催 資料 1 補足説明資料 (大気質、水環境、 景観関係)	3. 【景観】景観の予測評価における最大垂直視角について	2-53

表－1 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 8-2）

現行（資料 No. 8-2 p2-1）

表1 重金属等の微量物質の濃度の調査結果（年平均値）

（単位：ng/m³）

項目	調査地点	五毛丸山	北青木	ポート アイランド	六甲 アイランド
	カドミウム及びその化合物		0.11	0.15	0.15
塩化水素 注2		0.20	0.37	0.90	0.63
ふっ化水素 注2	ガス状	0.007	0.011	0.009	0.008
	粒子状	0.3	0.3	0.3	0.3
鉛及びその化合物		4.4	6.4	6.6	5.9
銅及びその化合物		2.5	6.4	6.0	6.1
バナジウム及びその化合物		3.2	4.5	11	12
亜鉛及びその化合物		13	26	28	26
セレン及びその化合物		0.4	0.6	0.6	0.5

修正後

表1 重金属等の微量物質の濃度の調査結果（年平均値）

（単位：ng/m³）

項目	調査地点	五毛丸山	北青木	ポート アイランド	六甲 アイランド
	カドミウム及びその化合物		0.11	0.15	0.15
塩化水素 注2		0.20	0.37	0.90	0.63
ふっ化水素 注2	ガス状	0.007	0.015 ※1	0.012 ※2	0.010 ※3
	粒子状	0.3	0.3	0.3	0.3
鉛及びその化合物		4.4	6.4	6.6	5.7 ※4
銅及びその化合物		2.5	6.5 ※5	6.0	6.1
バナジウム及びその化合物		3.2	4.5	11	12
亜鉛及びその化合物		13	26	28	26
セレン及びその化合物		0.4	0.6	0.6	0.5

【修正理由】

- ② KANSONo.30,34,35,36：秋季の分析結果について、「定量下限値未満、検出下限値以上」として取り扱うべきところを、誤って「定量下限値未満」としていたため、年平均値の計算を誤った。 ※1

【修正理由】（前頁の続き）

- ② KANSONo.28,32：秋季の分析結果について、「定量下限値未満、検出下限値以上」として取り扱うべきところを、誤って「定量下限値未満」としていたため、年平均値の計算を誤った。 ※2
- ② KANSONo.29,33,37：秋季、冬季の分析結果について、「定量下限値未満、検出下限値以上」として取り扱うべきところを、誤って「定量下限値未満」としていたため、年平均値の計算を誤った。 ※3
- ② KANSONo.21：調査結果の取りまとめ時、夏季平均値の計算間違いにより、年平均値の計算を誤った。 ※4
- ② KANSONo.21：調査結果の取りまとめ時、春季の分析結果が速報値のままであったことから年平均値の計算を誤った。 ※5

表－2 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 8-2）

現行（資料 No. 8-2 p2-3）			
表2 排煙中の重金属等の微量物質濃度			
予測項目	石炭中の重金属等の 微量物質濃度 ($\mu\text{g/g}$)	大気への排出割合 (%)	排煙中の重金属等の 微量物質濃度 (mg/m^3)
カドミウム及びその化合物	0.13	0.11	0.000016
塩化水素	390	0.37	0.165
ふっ化水素	220	0.66	0.166
鉛及びその化合物	34	0.048	0.00187
銅及びその化合物	22	0.040	0.00101
バナジウム及びその化合物	75	0.031	0.00266
亜鉛及びその化合物	30	0.14	0.00481
セレン及びその化合物	0.55	1.8	0.00113

修正後			
表2 排煙中の重金属等の微量物質濃度			
予測項目	石炭中の重金属等の 微量物質濃度 ($\mu\text{g/g}$)	大気への排出割合 (%)	排煙中の重金属等の 微量物質濃度 (mg/m^3)
カドミウム及びその化合物	0.13	0.12 ※1	0.000018 ※1
塩化水素	390	0.38 ※2	0.170 ※2
ふっ化水素	220	0.67 ※3	0.169 ※3
鉛及びその化合物	34	0.047 ※4	0.00183 ※4
銅及びその化合物	22	0.040 ※5	0.00101 ※5
バナジウム及びその化合物	75	0.031	0.00266
亜鉛及びその化合物	30	0.13 ※6	0.00446 ※6
セレン及びその化合物	0.55	1.7 ※7	0.00107 ※7

【修正理由】

対象	修正理由	数値の変更
※1	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	大気への排出割合 0.11→0.12 微量物質濃度 0.000016→0.000018
※2	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	大気への排出割合 0.37→0.38 微量物質濃度 0.165→0.170
※3	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,42,47：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、石炭中の濃度、排ガス中の濃度を誤って転記した。	大気への排出割合 0.66→0.67 微量物質濃度 0.166→0.169

【修正理由】（前頁の続き）

対象	修正理由	数値の変更
※4	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,44：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	大気への排出割合 0.048→0.046 微量物質濃度 0.00187→0.00179
	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	大気への排出割合 0.046→0.047 微量物質濃度 0.00179→0.00183
※5	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,43：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。 ① KANSO No.146：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	大気への排出割合 0.040→0.039 微量物質濃度 0.00101→0.00098
	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。 ※修正を全て反映すると、結果的に数値の変更はなかった。	大気への排出割合 0.039→0.040 微量物質濃度 0.00098→0.00101
※6	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,48：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。 ① KANSO No.145：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	大気への排出割合 0.14→0.13 微量物質濃度 0.00481→0.00446
※7	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,45：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。 ① KANSO No.147：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	大気への排出割合 1.8→1.7 微量物質濃度 0.00113→0.00107

表－3 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 8-2）

現行（資料 No. 8-2 p2-4）
将来環境濃度への寄与率は最大でも 1.11%であり、環境への影響はほとんどないと考えております。
修正後
将来環境濃度への寄与率は最大でも 1.06%であり、環境への影響はほとんどないと考えております。

【修正理由】

2-6～13 頁に示す「表 3-1～4 重金属等の微量物質濃度の予測結果」の修正に伴い数値を修正した。

表－4 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 8-2）

現行（資料 No. 8-2 p2-4）				
表 3-1 重金属等の微量物質濃度の予測結果				
（単位：ng/m ³ ）				
予測項目	最大着地濃度 ①	五毛丸山		
		バックグラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	寄与率 （%） ①/③
カドミウム及びその化合物	0.000064	0.11	0.110064	0.06
塩化水素	0.6600	200	200.6600	0.33
ふっ化水素	0.6640	307	307.6640	0.22
鉛及びその化合物	0.0075	4.4	4.4075	0.17
銅及びその化合物	0.0040	2.5	2.5040	0.16
バナジウム及びその化合物	0.0106	3.2	3.2106	0.33
亜鉛及びその化合物	0.0192	13	13.0192	0.15
セレン及びその化合物	0.0045	0.4	0.4045	1.11

修正後				
表 3-1 重金属等の微量物質濃度の予測結果				
（単位：ng/m ³ ）				
予測項目	最大着地濃度 ①	五毛丸山		
		バックグラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	寄与率 （%） ①/③
カドミウム及びその化合物	0.000072 ※1	0.11	0.110072 ※1	0.07 ※1
塩化水素	0.6800 ※2	200	200.6800 ※2	0.34 ※2
ふっ化水素	0.6760 ※3	307	307.6760 ※3	0.22
鉛及びその化合物	0.0073 ※4	4.4	4.4073 ※4	0.17
銅及びその化合物	0.0040 ※5	2.5	2.5040 ※5	0.16 ※5
バナジウム及びその化合物	0.0106	3.2	3.2106	0.33
亜鉛及びその化合物	0.0178 ※6	13	13.0178 ※6	0.14 ※6
セレン及びその化合物	0.0043 ※7	0.4	0.4043 ※7	1.06 ※7

【修正理由】

対象	修正理由	数値の変更
※1	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.000064→0.000072 将来環境濃度 0.110064→0.110072 寄与率 0.06→0.07
※2	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.6600→0.6800 将来環境濃度 200.6600→200.6800 寄与率 0.33→0.34

【修正理由】（前頁の続き）

対象	修正理由	数値の変更
※3	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,42,47：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、石炭中の濃度、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.6640→0.6760 将来環境濃度 307.6640→307.6760
※4	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,44：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0075→0.0072 将来環境濃度 4.4075→4.4072 寄与率 0.17→0.16
	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.0072→0.0073 将来環境濃度 4.4072→4.4073 寄与率 0.16→0.17
※5	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,43：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0040→0.0039 将来環境濃度 2.5040→2.5039
	① KANSONo.146：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。 ③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。 ※修正を全て反映すると、結果的に数値の変更はなかった。	最大着地濃度 0.0039→0.0040 将来環境濃度 2.5039→2.5040
※6	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,48：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0192→0.0178 将来環境濃度 13.0192→13.0178 寄与率 0.15→0.14
	① KANSONo.145：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	
※7	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,45：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0045→0.0043 将来環境濃度 0.4045→0.4043 寄与率 1.11→1.06
	① KANSONo.147：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	

表－5 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 8-2）

現行（資料 No. 8-2 p2-4）				
表 3-2 重金属等の微量物質濃度の予測結果				
（単位：ng/m ³ ）				
予測項目	最大着地濃度 ①	北青木		
		バックグラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	寄与率 （%） ①/③
カドミウム及びその化合物	0.000064	0.15	0.150064	0.04
塩化水素	0.6600	370	370.6600	0.18
ふっ化水素	0.6640	311	311.6640	0.21
鉛及びその化合物	0.0075	6.4	6.4075	0.12
銅及びその化合物	0.0040	6.4	6.4040	0.06
バナジウム及びその化合物	0.0106	4.5	4.5106	0.24
亜鉛及びその化合物	0.0192	26	26.0192	0.07
セレン及びその化合物	0.0045	0.6	0.6045	0.74

修正後				
表 3-2 重金属等の微量物質濃度の予測結果				
（単位：ng/m ³ ）				
予測項目	最大着地濃度 ①	北青木		
		バックグラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	寄与率 （%） ①/③
カドミウム及びその化合物	0.000072 ※1	0.15	0.150072 ※1	0.05 ※1
塩化水素	0.6800 ※2	370	370.6800 ※2	0.18
ふっ化水素	0.6760 ※3	315 ※4	315.6760 ※5	0.21
鉛及びその化合物	0.0073 ※6	6.4	6.4073 ※6	0.11 ※6
銅及びその化合物	0.0040 ※7	6.5 ※8	6.5040 ※9	0.06
バナジウム及びその化合物	0.0106	4.5	4.5106	0.24
亜鉛及びその化合物	0.0178 ※10	26	26.0178 ※10	0.07
セレン及びその化合物	0.0043 ※11	0.6	0.6043 ※11	0.71 ※11

【修正理由】

対象	修正理由	数値の変更
※1	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.000064→0.000072 将来環境濃度 0.150064→0.150072 寄与率 0.04→0.05
※2	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.6600→0.6800 将来環境濃度 370.6600→370.6800

【修正理由】（前頁の続き）

対象	修正理由	数値の変更
※3	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,42,47：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、石炭中の濃度、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.6640→0.6760
※4	① KANSONo.30,34,35,36：秋季の分析結果について、「定量下限値未満、検出下限値以上」として取り扱うべきところを、誤って「定量下限値未満」としていたため、年平均値の計算を誤った。	バックグラウンド濃度 311→315
※5	① ※3、※4の修正に伴い修正した。	将来環境濃度 311.6640→315.6760
※6	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,44：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0075→0.0072 将来環境濃度 6.4075→6.4072 寄与率 0.12→0.11
	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.0072→0.0073 将来環境濃度 6.4072→6.4073
※7	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,43：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0040→0.0039
	① KANSONo.146：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。 ③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。 ※修正を全て反映すると、結果的に数値の変更はなかった。	最大着地濃度 0.0039→0.0040
※8	① KANSONo.21：調査結果の取りまとめ時、春季の分析結果が速報値のままであったことから年平均値の計算を誤った。	バックグラウンド濃度 6.4→6.5
※9	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,43：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	将来環境濃度 6.4040→6.5039
	① KANSONo.146：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。 ③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	将来環境濃度 6.5039→6.5040
※10	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,48：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0192→0.0178 将来環境濃度 26.0192→26.0178
※11	① KANSONo.145：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	
	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,45：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0045→0.0043 将来環境濃度 0.6045→0.6043 寄与率 0.74→0.71

表－6 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 8-2）

現行（資料 No. 8-2 p2-5）				
表 3-3 重金属等の微量物質濃度の予測結果				
（単位：ng/m ³ ）				
予測項目	最大着地濃度 ①	ポートアイランド		
		バックグラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	寄与率 （%） ①/③
カドミウム及びその化合物	0.000064	0.15	0.150064	0.04
塩化水素	0.6600	900	900.6600	0.07
ふっ化水素	0.6640	309	309.6640	0.21
鉛及びその化合物	0.0075	6.6	6.6075	0.11
銅及びその化合物	0.0040	6.0	6.0040	0.07
バナジウム及びその化合物	0.0106	11	11.0106	0.10
亜鉛及びその化合物	0.0192	28	28.0192	0.07
セレン及びその化合物	0.0045	0.6	0.6045	0.74

修正後				
表 3-3 重金属等の微量物質濃度の予測結果				
（単位：ng/m ³ ）				
予測項目	最大着地濃度 ①	ポートアイランド		
		バックグラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	寄与率 （%） ①/③
カドミウム及びその化合物	0.000072 ※1	0.15	0.150072 ※1	0.05 ※1
塩化水素	0.6800 ※2	900	900.6800 ※2	0.08 ※2
ふっ化水素	0.6760 ※3	312 ※4	312.6760 ※5	0.22 ※5
鉛及びその化合物	0.0073 ※6	6.6	6.6073 ※6	0.11
銅及びその化合物	0.0040 ※7	6.0	6.0040 ※7	0.07 ※7
バナジウム及びその化合物	0.0106	11	11.0106	0.10
亜鉛及びその化合物	0.0178 ※8	28	28.0178 ※8	0.06 ※8
セレン及びその化合物	0.0043 ※9	0.6	0.6043 ※9	0.71 ※9

【修正理由】

対象	修正理由	数値の変更
※1	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.000064→0.000072 将来環境濃度 0.150064→0.150072 寄与率 0.04→0.05
※2	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.6600→0.6800 将来環境濃度 900.6600→900.6800 寄与率 0.07→0.08

【修正理由】（前頁の続き）

対象	修正理由	数値の変更
※3	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,42,47：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、石炭中の濃度、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.6640→0.6760
※4	① KANSONo.28,32：秋季の分析結果について、「定量下限値未満、検出下限値以上」として取り扱うべきところを、誤って「定量下限値未満」としていたため、年平均値の計算を誤った。	バックグラウンド濃度 309→312
※5	① ※3、※4の修正に伴い修正した。	将来環境濃度 309.6640→312.6760 寄与率 0.21→0.22
※6	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,44：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0075→0.0072 将来環境濃度 6.6075→6.6072
	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.0072→0.0073 将来環境濃度 6.6072→6.6073
※7	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,43：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0040→0.0039 将来環境濃度 6.0040→6.0039 寄与率 0.07→0.06
	① KANSONo.146：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	
	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。 ※修正を全て反映すると、結果的に数値の変更はなかった。	最大着地濃度 0.0039→0.0040 将来環境濃度 6.0039→6.0040 寄与率 0.06→0.07
※8	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,48：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0192→0.0178 将来環境濃度 28.0192→28.0178 寄与率 0.07→0.06
	① KANSONo.145：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	
※9	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,45：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0045→0.0043 将来環境濃度 0.6045→0.6043 寄与率 0.74→0.71
	① KANSONo.147：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	

表－7 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 8-2）

現行（資料 No. 8-2 p2-5）				
表 3-4 重金属等の微量物質濃度の予測結果				
（単位：ng/m ³ ）				
予測項目	最大着地濃度 ①	六甲アイランド		
		バックグラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	寄与率 （%） ①/③
カドミウム及びその化合物	0.000064	0.14	0.140064	0.05
塩化水素	0.6600	630	630.6600	0.10
ふっ化水素	0.6640	308	308.6640	0.22
鉛及びその化合物	0.0075	5.9	5.9075	0.13
銅及びその化合物	0.0040	6.1	6.1040	0.07
バナジウム及びその化合物	0.0106	12	12.0106	0.09
亜鉛及びその化合物	0.0192	26	26.0192	0.07
セレン及びその化合物	0.0045	0.5	0.5045	0.89

修正後				
表 3-4 重金属等の微量物質濃度の予測結果				
（単位：ng/m ³ ）				
予測項目	最大着地濃度 ①	六甲アイランド		
		バックグラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	寄与率 （%） ①/③
カドミウム及びその化合物	0.000072 ※1	0.14	0.140072 ※1	0.05
塩化水素	0.6800 ※2	630	630.6800 ※2	0.11 ※2
ふっ化水素	0.6760 ※3	310 ※4	310.6760 ※5	0.22
鉛及びその化合物	0.0073 ※6	5.7 ※7	5.7073 ※8	0.13
銅及びその化合物	0.0040 ※9	6.1	6.1040 ※9	0.07 ※9
バナジウム及びその化合物	0.0106	12	12.0106	0.09
亜鉛及びその化合物	0.0178 ※10	26	26.0178 ※10	0.07
セレン及びその化合物	0.0043 ※11	0.5	0.5043 ※11	0.85 ※11

【修正理由】

対象	修正理由	数値の変更
※1	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.000064→0.000072 将来環境濃度 0.140064→0.140072
※2	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.6600→0.6800 将来環境濃度 630.6600→630.6800 寄与率 0.10→0.11

【修正理由】（前頁の続き）

対象	修正理由	数値の変更
※3	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,42,47：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、石炭中の濃度、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.6640→0.6760
※4	① KANSONo.29,33,37：秋季、冬季の分析結果について、「定量下限値未満、検出下限値以上」として取り扱うべきところを、誤って「定量下限値未満」としていたため、年平均値の計算を誤った。	バックグラウンド濃度 308→310
※5	① ※3、※4の修正に伴い修正した。	将来環境濃度 308.6640→310.6760
※6	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,44：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0075→0.0072
	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.0072→0.0073
※7	① KANSONo.21：調査結果の取りまとめ時、夏季平均値の計算間違いにより、年平均値の計算を誤った。	バックグラウンド濃度 5.9→5.7
※8	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,44：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	将来環境濃度 5.9075→5.7072
	① KANSONo.21：調査結果の取りまとめ時、夏季平均値を誤って定量下限未満としたことにより、年平均値の計算を誤った。	
	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	将来環境濃度 5.7072→5.7073
※9	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,43：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0040→0.0039 将来環境濃度 6.1040→6.1039 寄与率 0.07→0.06
	① KANSONo.146：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	
	③ 神戸発電所の実績から排出率を算出するためのエクセルに入力した計算式が間違っていた（参照セルの間違い）。	最大着地濃度 0.0039→0.0040 将来環境濃度 6.1039→6.1040 寄与率 0.06→0.07
	※修正を全て反映すると、結果的に数値の変更はなかった。	
※10	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,48：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0192→0.0178 将来環境濃度 26.0192→26.0178
	① KANSONo.145：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	
※11	① 環防部No.1,2,3,4,9,10,11,12,45：神戸発電所の石炭中の含有量及び排ガス中の濃度の分析・測定実績から排出率を算出する際、一部のデータで石炭使用量や排ガス量、排ガス中の濃度を誤って転記した。	最大着地濃度 0.0045→0.0043 将来環境濃度 0.5045→0.5043 寄与率 0.89→0.85
	① KANSONo.147：排ガス中の濃度の分析結果について数値の端数処理を誤った。	

表－8 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 8-3）

現行（資料 No. 8-3 p3-2）					
表2 予測結果と環境基準との対比					
予測項目	建物高さの区分	寄与濃度 ①	バック グラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ①+②	環境基準の 年平均相当値
二酸化 窒素 (ppm)	126～190mの建物	0.00012	0.023	0.02312	0.030
	110～125mの建物	0.00010		0.02310	
	100～109mの建物	0.00009		0.02309	

注：

2. 環境基準の年平均相当値は、調査地域内にある一般局（二酸化硫黄については21局、二酸化窒素については33局、浮遊粒子状物質については31局）の平成23～27年度の観測値を基に作成した以下の式により求めた。

二酸化硫黄 $y = 0.4911 \cdot x - 0.0006$ y ：年平均相当値（ppm） x ：日平均値の2%除外値（ppm）

二酸化窒素 $y = 0.5579 \cdot x - 0.0032$ y ：年平均相当値（ppm） x ：日平均値の年間98%値（ppm）

浮遊粒子状物質 $y = 0.2864 \cdot x + 0.0050$ y ：年平均相当値（mg/m³） x ：日平均値の2%除外値（mg/m³）

修正後

表2 予測結果と環境基準との対比

予測項目	建物高さの区分	寄与濃度 ①	バック グラウンド 濃度 ②	将来環境濃度 ①+②	環境基準の 年平均相当値
二酸化 窒素 (ppm)	126～190mの建物	0.00012	0.023	0.02312	0.019 ～0.030
	110～125mの建物	0.00010		0.02310	
	100～109mの建物	0.00009		0.02309	

注：

2. 環境基準の年平均相当値は、調査地域内にある一般局（二酸化硫黄については21局、二酸化窒素については33局、浮遊粒子状物質については31局）の平成23～27年度の観測値を基に作成した以下の式により求めた。

二酸化硫黄 $y = 0.4917 \cdot x - 0.0006$ y ：年平均相当値（ppm） x ：日平均値の2%除外値（ppm）

二酸化窒素 $y = 0.5573 \cdot x - 0.0032$ y ：年平均相当値（ppm） x ：日平均値の年間98%値（ppm）

浮遊粒子状物質 $y = 0.2838 \cdot x + 0.0052$ y ：年平均相当値（mg/m³） x ：日平均値の2%除外値（mg/m³）

3. 二酸化窒素の環境基準の年平均相当値については、環境基準のゾーン（1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下）の下限値と上限値の範囲で示した。

【修正理由】

注2：④文献等のデータ集計にあたり、兵庫県のホームページから大気環境濃度のデータをダウンロードした際、異常値が一部含まれており、正しいデータ（1時間値）で再統計処理を行ったが、その結果を反映していなかった。

注3：⑥神戸市環境影響評価審査会での指摘により、環境基準の年平均相当値について、1時間値の1日平均値が0.04ppmに相当する数値を追記した。

表－9 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 8-5）

現行（資料 No. 8-5 p5-22）

表 12 年平均値予測結果と環境基準との対比

予測項目	評価対象地点	寄与濃度 ①	バックグラウンド濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	環境基準の年平均相当値	寄与率 (①/③)	評価対象地点の選定根拠
二酸化窒素 (ppm)	住吉南	0.000040	0.021	0.021040	0.030	0.2%	寄与濃度の最大
	灘浜	0.000023	0.023	0.023023		0.1%	環境濃度の最大

注：

2. 環境基準の年平均相当値は、調査地域内にある一般局（二酸化硫黄については 21 局、二酸化窒素については 33 局、浮遊粒子状物質については 31 局）の平成 23～27 年度の観測値を基に作成した以下の式により求めた。

二酸化硫黄 $y = 0.4911 \cdot x - 0.0006$ y ：年平均相当値 (ppm) x ：日平均値の 2% 除外値 (ppm)

二酸化窒素 $y = 0.5579 \cdot x - 0.0032$ y ：年平均相当値 (ppm) x ：日平均値の年間 98% 値 (ppm)

浮遊粒子状物質 $y = 0.2864 \cdot x + 0.0050$ y ：年平均相当値 (mg/m³) x ：日平均値の 2% 除外値 (mg/m³)

修正後

表 12 年平均値予測結果と環境基準との対比

予測項目	評価対象地点	寄与濃度 ①	バックグラウンド濃度 ②	将来環境濃度 ③=①+②	環境基準の年平均相当値	寄与率 (①/③)	評価対象地点の選定根拠
二酸化窒素 (ppm)	住吉南	0.000040	0.021	0.021040	0.019	0.2%	寄与濃度の最大
	灘浜	0.000023	0.023	0.023023	～0.030	0.1%	環境濃度の最大

注：

2. 環境基準の年平均相当値は、調査地域内にある一般局（二酸化硫黄については 21 局、二酸化窒素については 33 局、浮遊粒子状物質については 31 局）の平成 23～27 年度の観測値を基に作成した以下の式により求めた。

二酸化硫黄 $y = 0.4917 \cdot x - 0.0006$ y ：年平均相当値 (ppm) x ：日平均値の 2% 除外値 (ppm)

二酸化窒素 $y = 0.5573 \cdot x - 0.0032$ y ：年平均相当値 (ppm) x ：日平均値の年間 98% 値 (ppm)

浮遊粒子状物質 $y = 0.2838 \cdot x + 0.0052$ y ：年平均相当値 (mg/m³) x ：日平均値の 2% 除外値 (mg/m³)

3. 二酸化窒素の環境基準の年平均相当値については、環境基準のゾーン（1 時間値の 1 日平均値が 0.04～0.06ppm までのゾーンはそれ以下）の下限値と上限値の範囲で示した。

【修正理由】

注 2：④文献等のデータ集計にあたり、兵庫県のホームページから大気環境濃度のデータをダウンロードした際、異常値が一部含まれており、正しいデータ（1 時間値）で再統計処理を行ったが、その結果を反映していなかった。

注 3：⑥神戸市環境影響評価審査会での指摘により、環境基準の年平均相当値について、1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm に相当する数値を追記した。

表-10 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 8-5)

現行 (資料 No. 8-5 p5-24)

表 13(1) 関係車両の走行および関係船舶の航行・停泊に伴う
二酸化窒素濃度の予測結果 (年平均値)

予測地点	窒素酸化物				二酸化窒素			
	関係車両 寄与濃度 ①	バックグラウンド濃度		沿道将来 環境濃度 ④=①+② +③	沿道将来 環境濃度 ⑤	関係船舶 寄与濃度 ⑥	将来 環境濃度 ⑦=⑤+⑥	環境基準 の年平均 相当値
		一般車両等 寄与濃度 ②	環境濃度 ③					
道路 1	0.000028	0.007662	0.034	0.041690	0.0238	0.000035	0.023835	0.036
道路 2	0.000012	0.001788	0.034	0.035800	0.0216	0.000082	0.021682	
道路 3	0.000007	0.001558	0.034	0.035565	0.0215	0.000045	0.021545	
道路 4	0.000029	0.007046	0.034	0.041075	0.0235	0.000037	0.023537	

注：

3. 環境基準の年平均相当値は、調査地域内にある自動車排ガス測定局 (二酸化窒素は 22 局) の平成 23
~27 年度の観測値を基に作成した以下の式により求めた。

二酸化窒素 $y = 0.7450 \cdot x - 0.0091$ y : 年平均相当値 (ppm) x : 日平均値の年間 98% 値 (ppm)

修正後

表 13(1) 関係車両の走行および関係船舶の航行・停泊に伴う
二酸化窒素濃度の予測結果 (年平均値)

予測地点	窒素酸化物				二酸化窒素			
	関係車両 寄与濃度 ①	バックグラウンド濃度		沿道将来 環境濃度 ④=①+② +③	沿道将来 環境濃度 ⑤	関係船舶 寄与濃度 ⑥	将来 環境濃度 ⑦=⑤+⑥	環境基準 の年平均 相当値
		一般車両等 寄与濃度 ②	環境濃度 ③					
道路 1	0.000028	0.007662	0.034	0.041690	0.0238	0.000035	0.023835	0.021 ~0.036
道路 2	0.000012	0.001788	0.034	0.035800	0.0216	0.000082	0.021682	
道路 3	0.000007	0.001558	0.034	0.035565	0.0215	0.000045	0.021545	
道路 4	0.000029	0.007046	0.034	0.041075	0.0235	0.000037	0.023537	

注：

3. 環境基準の年平均相当値は、調査地域内にある自動車排ガス測定局 (二酸化窒素は 22 局) の平成 23
~27 年度の観測値を基に作成した以下の式により求めた。

二酸化窒素 $y = 0.7450 \cdot x - 0.0091$ y : 年平均相当値 (ppm) x : 日平均値の年間 98% 値 (ppm)

4. 二酸化窒素の環境基準の年平均相当値については、環境基準のゾーン (1 時間値の 1 日平均値が 0.04~0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下) の下限値と上限値の範囲で示した。

【修正理由】

- ⑥ 神戸市環境影響評価審査会での指摘により、環境基準の年平均相当値について、1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm に相当する数値を追記した。

表-11 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 8-6)

現行 (資料 No. 8-6 p6-2)

表 3 既設煙源の諸元

項目			②神戸製鉄所 自家用発電所	③神戸製鉄所 第3分塊工場	④神戸製鉄所 棒鋼工場
煙突	地上高	m	100	100	100.3
	口径	m	2.36	3.0	2.5
排出ガス量	湿り	10 ³ m ³ N/h	172	70	165
煙突出口ガス	温度	℃	53.0	200	250
	速度	m/s	13.05	4.8	17.9
硫黄酸化物	排出量	m ³ N/h	6.7	-----	-----
窒素酸化物	排出量	m ³ N/h	11.9	9.0	12.2
ばいじん	排出量	kg/h	16.1	2.7	10.8

修正後

表 3 既設煙源の諸元

項目			②神戸製鉄所 自家用発電所	③神戸製鉄所 第3分塊工場	④神戸製鉄所 棒鋼工場
煙突	地上高	m	100	100	100.3
	口径	m	4.09	3.0	2.5
排出ガス量	湿り	10 ³ m ³ N/h	172	70	165
煙突出口ガス	温度	℃	53.0	200	250
	速度	m/s	4.3	4.8	17.9
硫黄酸化物	排出量	m ³ N/h	6.7	-----	-----
窒素酸化物	排出量	m ³ N/h	11.9	9.0	12.2
ばいじん	排出量	kg/h	16.1	2.7	10.8

【修正理由】

- ④ 自家発電所 2 号ボイラーの排ガス速度を設定する際、計画の変更を反映していなかった。

表-12 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 8-6)

現行 (資料 No. 8-6 p6-3)			
表 4 建物ダウンウォッシュ発生時の二酸化硫黄予測結果			
項目	単位	建物ダウンウォッシュ発生時	
②神戸製鉄所 自家用発電所	風向	16 方位	E S E
	風速	m/s	1.5
	上層の大気安定度	—	B
	最大着地濃度	ppm	0.0055
	最大着地濃度出現距離	km	0.9
修正後			
表 4 建物ダウンウォッシュ発生時の二酸化硫黄予測結果			
項目	単位	建物ダウンウォッシュ発生時	
②神戸製鉄所 自家用発電所	風向	16 方位	E S E
	風速	m/s	1.5
	上層の大気安定度	—	B
	最大着地濃度	ppm	0.0056
	最大着地濃度出現距離	km	0.9

【修正理由】

「資料 No.8-6 p6-2 表 3 既設煙源の諸元」の修正に伴い、修正した。

表-13 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 8-6)

現行 (資料 No. 8-6 p6-3)			
表 5 建物ダウンウォッシュ発生時の二酸化窒素予測結果			
項目	単位	建物ダウンウォッシュ発生時	
②神戸製鉄所 自家用発電所	風向	16 方位	E S E
	風速	m/s	1.5
	上層の大気安定度	—	B
	最大着地濃度	ppm	0.0098
	最大着地濃度出現距離	km	0.9
修正後			
表 5 建物ダウンウォッシュ発生時の二酸化窒素予測結果			
項目	単位	建物ダウンウォッシュ発生時	
②神戸製鉄所 自家用発電所	風向	16 方位	E S E
	風速	m/s	1.5
	上層の大気安定度	—	B
	最大着地濃度	ppm	0.0100
	最大着地濃度出現距離	km	0.9

【修正理由】

「資料 No.8-6 p6-2 表 3 既設煙源の諸元」の修正に伴い、修正した。

表-14 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 8-6)

現行 (資料 No. 8-6 p6-3)

表 6 建物ダウンウォッシュ発生時の浮遊粒子状物質予測結果

項目	単位	建物ダウンウォッシュ発生時
②神戸製鉄所 自家用発電所	風向	16 方位
	風速	m/s
	上層の 대기安定度	—
	最大着地濃度	mg/m ³
	最大着地濃度出現距離	km

修正後

表 6 建物ダウンウォッシュ発生時の浮遊粒子状物質予測結果

項目	単位	建物ダウンウォッシュ発生時
②神戸製鉄所 自家用発電所	風向	16 方位
	風速	m/s
	上層の 대기安定度	—
	最大着地濃度	mg/m ³
	最大着地濃度出現距離	km

【修正理由】

「資料 No.8-6 p6-2 表 3 既設煙源の諸元」の修正に伴い、修正した。

表-15 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 8-6)

現行 (資料 No. 8-6 p6-4)

表7 建物ダウンウォッシュ発生時の1時間値予測結果と環境基準等との対比

区分	予測項目	寄与濃度 ①	バックグラウンド濃度 ②	将来環境濃度 ①+②	環境基準又は短期暴露の指針値
②神戸製鉄所 自家用発電所	二酸化硫黄 (ppm)	0.0055	0.003	0.0085	1時間値として 0.1ppm 以下
	二酸化窒素 (ppm)	0.0098	0.029	0.0388	1時間暴露として 0.1~0.2ppm 以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0132	0.020	0.0332	1時間値として 0.20mg/m ³ 以下

修正後

表7 建物ダウンウォッシュ発生時の1時間値予測結果と環境基準等との対比

区分	予測項目	寄与濃度 ①	バックグラウンド濃度 ②	将来環境濃度 ①+②	環境基準又は短期暴露の指針値
②神戸製鉄所 自家用発電所	二酸化硫黄 (ppm)	0.0056	0.003	0.0086	1時間値として 0.1ppm 以下
	二酸化窒素 (ppm)	0.0100	0.029	0.0390	1時間暴露として 0.1~0.2ppm 以下
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0135	0.020	0.0335	1時間値として 0.20mg/m ³ 以下

【修正理由】

「資料 No.8-6 p6-2 表3 既設煙源の諸元」の修正に伴い、修正した。

表-16 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 9)

現行 (資料 No. 9 p1)

表 2. 白煙の出現頻度観測結果

年月	平成 27 年	平成 28 年											年間
	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	
平均気温(°C)	10.4	7.0	7.6	10.8	16.5	20.9	23.3	27.6	29.4	26.0	20.8	13.9	17.9
相対湿度(%)	63	60	61	65	60	71	76	69	67	57	66	62	65
対象時間(時間)	744	744	696	744	720	744	720	744	744	720	744	720	8784
視認時間(時間)	57	178	117	92	0	2	0	0	0	0	0	17	463
出現頻度(%)	7.7	23.9	16.8	12.4	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	5.3

修正後

表 2. 白煙の出現頻度観測結果

年月	平成 27 年	平成 28 年											年間
	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	
平均気温(°C)	10.4	7.0	7.6	10.8	16.5	20.9	23.3	27.6	29.4	26.0	20.8	13.9	17.9
相対湿度(%)	62	59	57	57	64	63	73	73	64	73	63	66	65
対象時間(時間)	744	744	696	744	720	744	720	744	744	720	744	720	8784
視認時間(時間)	57	178	117	92	0	2	0	0	0	0	0	17	463
出現頻度(%)	7.7	23.9	16.8	12.4	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	5.3

【修正理由】

- ④ 気象庁のデータベースから、平成 27 年 12 月～平成 28 年 11 月の値を記載すべきところを、誤って平成 27 年 1 月～12 月の値を記載した。

表-17 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p13)				
表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ				
項目	内容	単位	設定値	参考文献
無機態リン (DIP)	植物プランクトン中の P/C 比	—	0.025	3
	溶存態有機物中の P/C 比	—	0.0943	4
	懸濁態有機物中の P/C 比	—	0.0131	4
	底泥の溶出速度 (水温 0℃)	mg/m ² /day	14.1	5
	底泥の溶出に関する温度係数	1/℃	0.014	5
無機態窒素 (DIN)	植物プランクトン中の N/C 比	—	0.15	3
	溶存態有機物中の N/C 比	—	0.213	3
	懸濁態有機物中の N/C 比	—	0.177	3
	底泥の溶出速度 (水温 0℃)	mg/m ² /day	1.36	5
	底泥の溶出に関する温度係数	1/℃	0.08	5
溶存酸素 (DO)	再曝気係数	—	0.6	6
	底泥の酸素消費速度	mg/m ² /day	1,750 × 1.05 ^(20-水温)	7
修正後				
表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ				
項目	内容	単位	設定値	参考文献
無機態リン (DIP)	植物プランクトン中の P/C 比	—	0.025	3
	溶存態有機物中の P/C 比	—	0.0139 ※1	4
	懸濁態有機物中の P/C 比	—	0.0943	4
	底泥の溶出速度 (水温 0℃)	mg/m ² /day	14.1	5
	底泥の溶出に関する温度係数	1/℃	0.014	5
無機態窒素 (DIN)	植物プランクトン中の N/C 比	—	0.15	3
	溶存態有機物中の N/C 比	—	0.186 ※2	4 ※3
	懸濁態有機物中の N/C 比	—	0.217	4 ※3
	底泥の溶出速度 (水温 0℃)	mg/m ² /day	1.36	5
	底泥の溶出に関する温度係数	1/℃	0.08	5
溶存酸素 (DO)	再曝気係数	—	0.6	6
	底泥の酸素消費速度	mg/m ² /day	1,750 × 1.05 ^(水温-20) ※3	7

【修正理由】

- ※1 ② KANSONo.85~100 : P/C 比の設定に必要な溶解性有機炭素 (DOC) の計算及び端数処理の誤りがあった。また、「溶存態有機物中の P/C 比」と「懸濁態有機物中の P/C 比」の記載を誤って逆としていた。
- ※2 ② KANSONo.85~101 : N/C 比の設定に必要な溶解性有機炭素 (DOC)、溶解性有機体窒素 (DON) の計算及び端数処理の誤りがあった。また、「溶存態有機物中の P/C 比」と「懸濁態有機物中の P/C 比」の記載を誤って逆としていた。
- ※3 ② 記載を誤っていたため、修正した。

表-18 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p18)

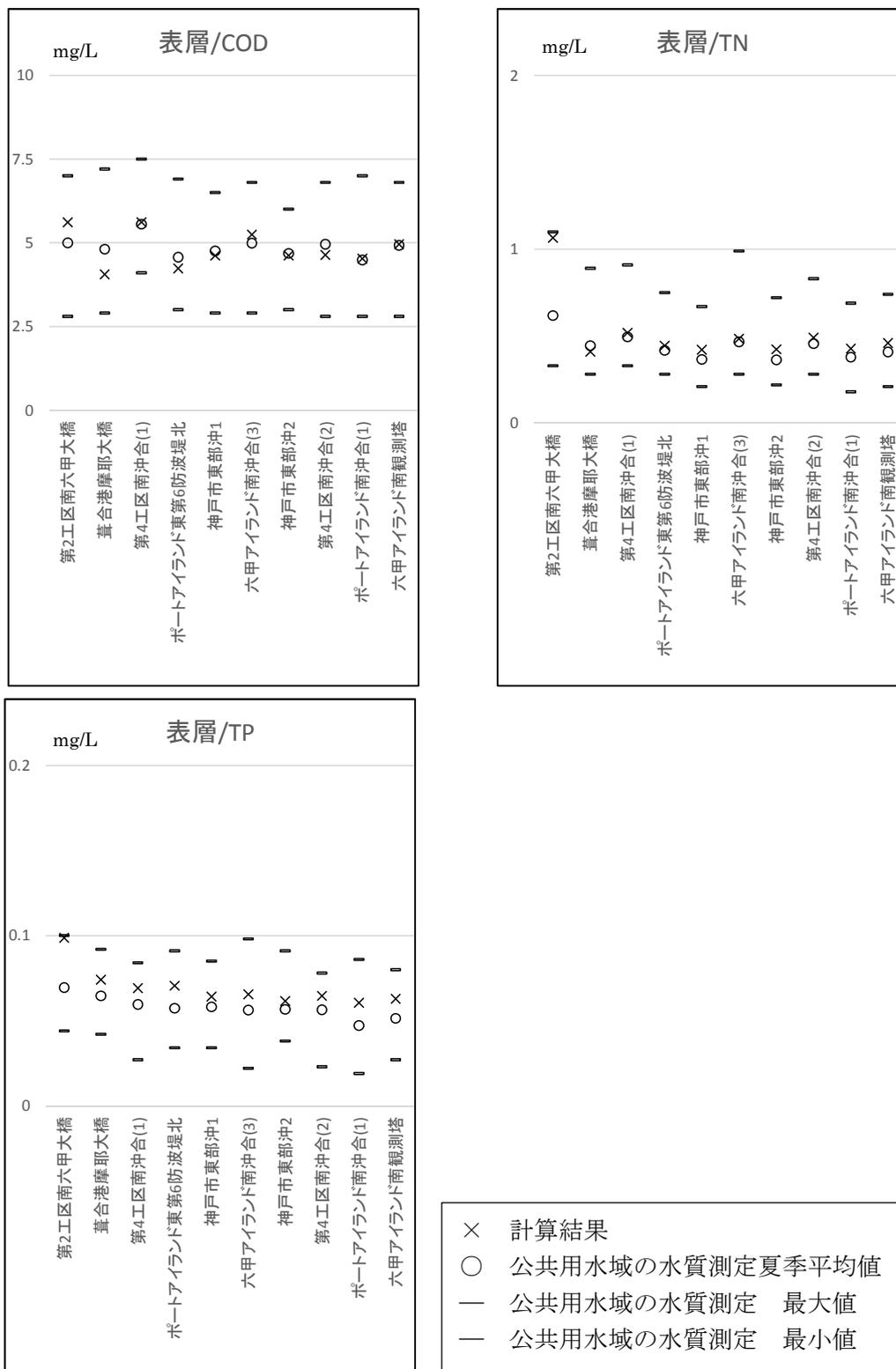
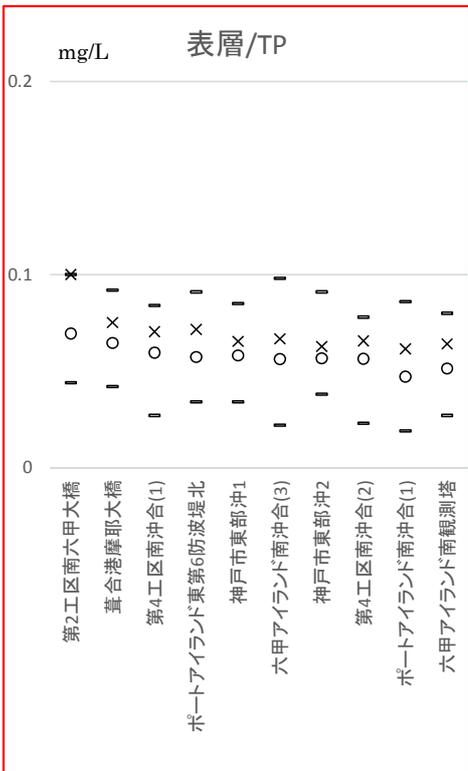
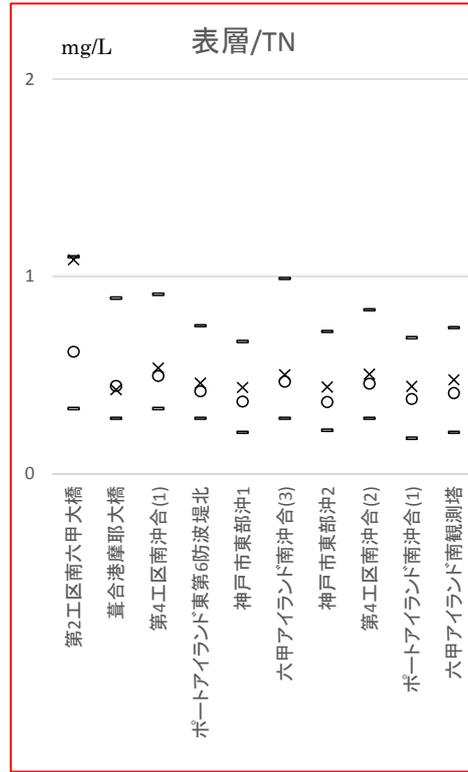
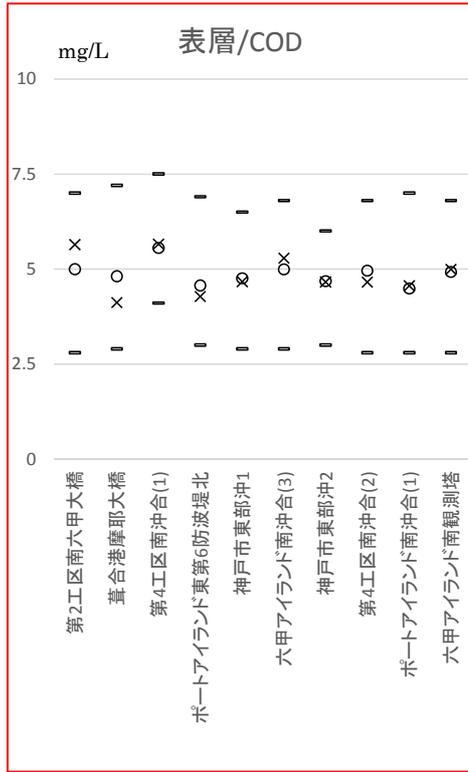


図 6-3(1) 公共用水域の水質測定結果と計算結果の比較 (表層 COD、TN、TP)



× 計算結果
 ○ 公共用水域の水質測定夏季平均値
 — 公共用水域の水質測定 最大値
 — 公共用水域の水質測定 最小値

図 6-3(1) 公共用水域の水質測定結果と計算結果の比較 (表層 COD、TN、TP)

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行い、再現性を確認した結果を反映した。

表-19 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p19)

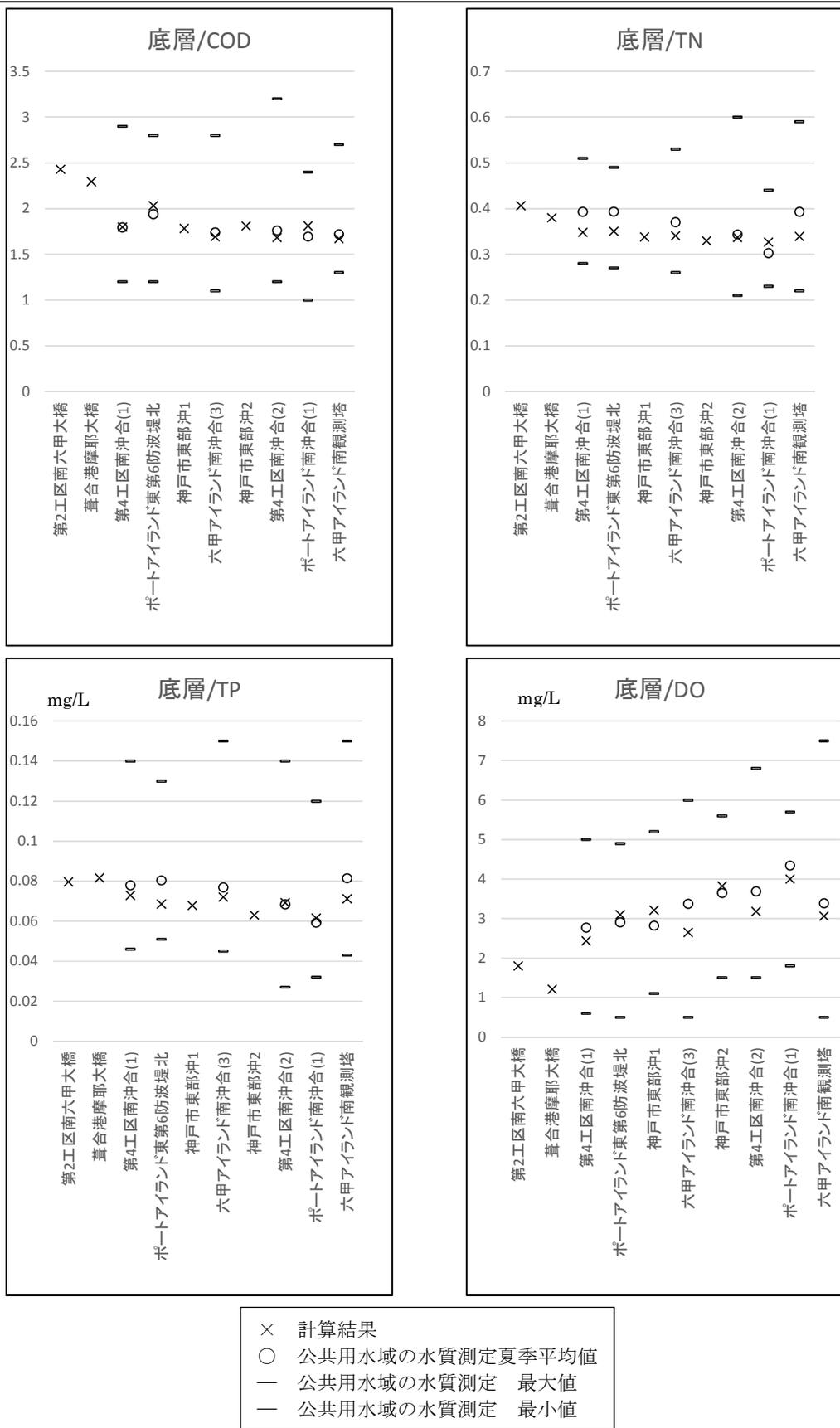
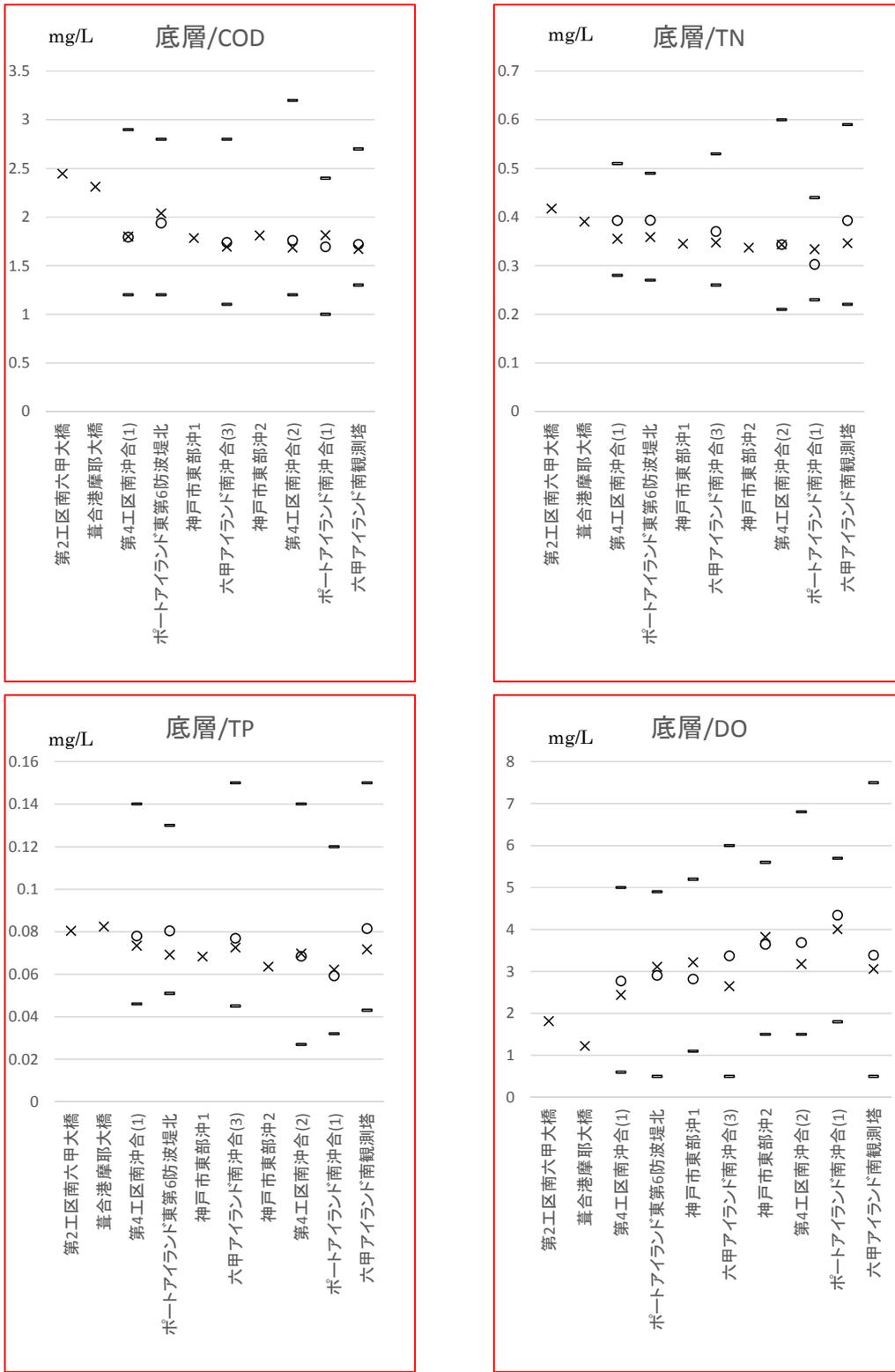


図 6-3(2) 公共用水域の水質測定結果と計算結果の比較 (底層 COD、TN、TP、DO)



× 計算結果
 ○ 公共用水域の水質測定 夏季平均値
 — 公共用水域の水質測定 最大値
 — 公共用水域の水質測定 最小値

図 6-3(2) 公共用水域の水質測定結果と計算結果の比較 (底層 COD、TN、TP、DO)

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い再計算を行い、再現性を確認した結果を反映した。

表-20 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 10）

現行（資料 No. 10 p20）
T-Nについては 0.01mg/L、T-Pについては 0.001mg/Lの僅かな変化が見られましたが、海域全体として濃度分布に特段の変化は確認されませんでした。
修正後
T-Nについては 0.01～0.02mg/L、T-Pについては 0.001mg/Lの僅かな変化が見られましたが、海域全体として濃度分布に特段の変化は確認されませんでした。

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-21 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p21)

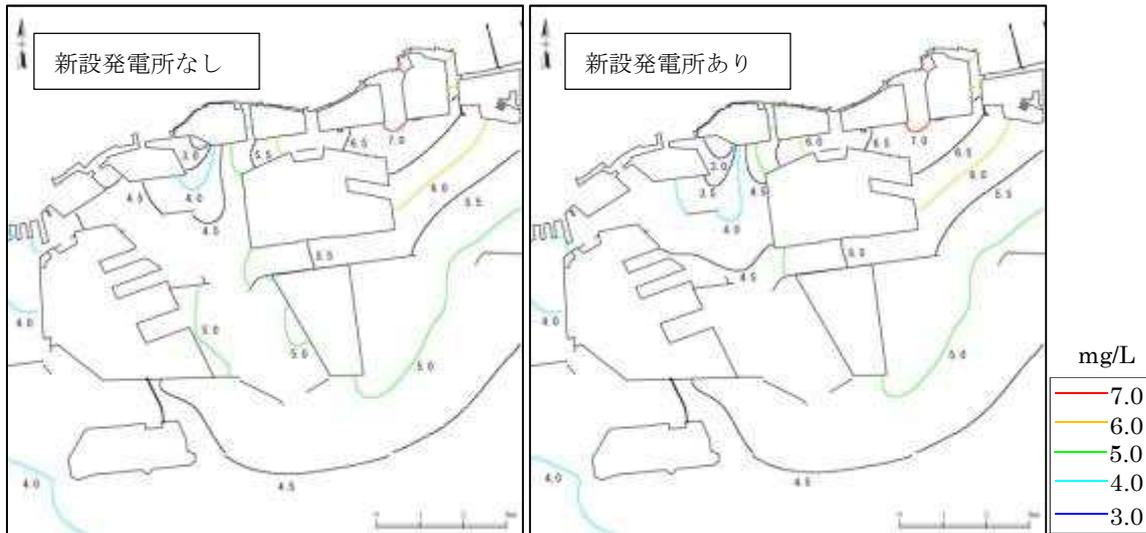


図 7-1(1) COD の予測結果の平面分布 (表層)

修正後

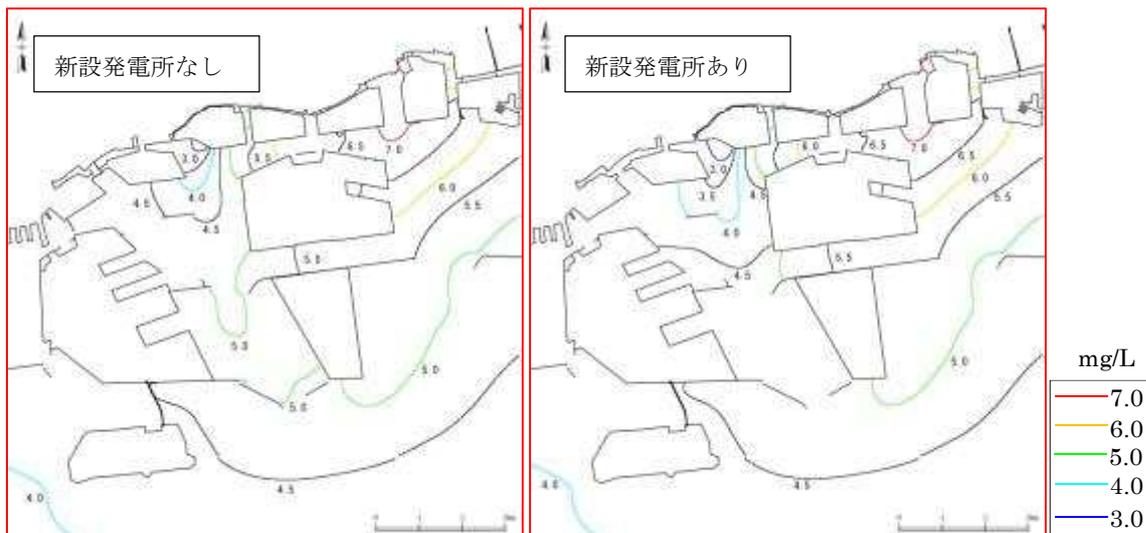


図 7-1(1) COD の予測結果の平面分布 (表層)

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-22 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p21)

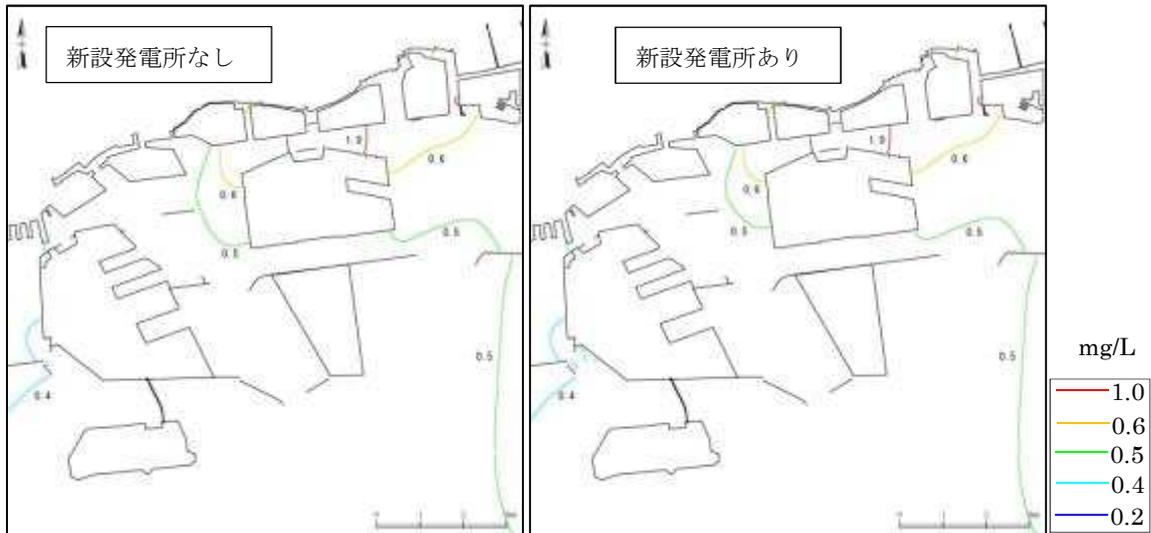


図 7-1(2) T-N の予測結果の平面分布 (表層)

修正後

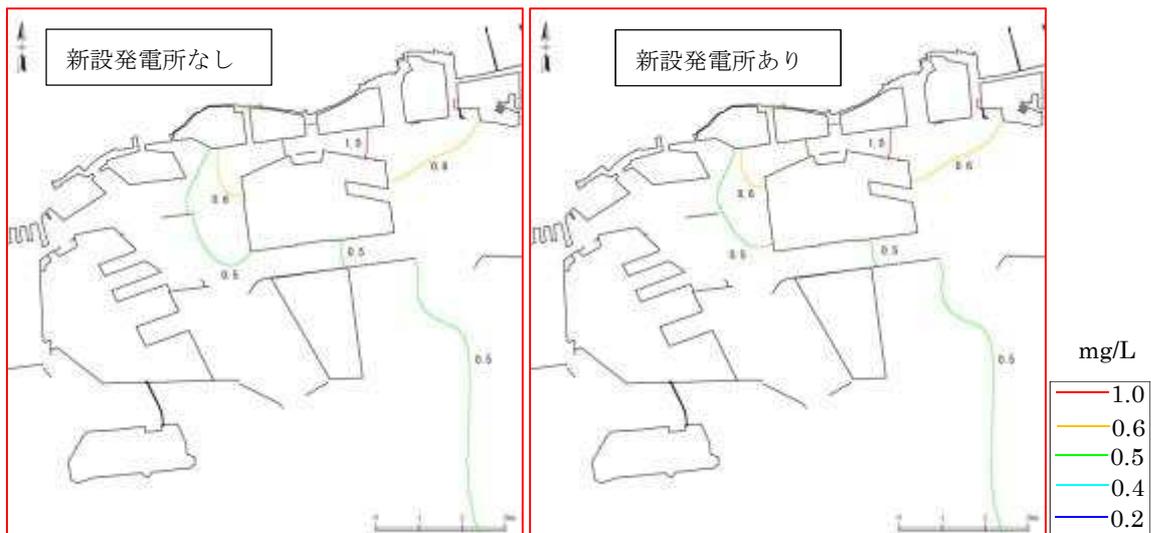


図 7-1(2) T-N の予測結果の平面分布 (表層)

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-23 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p22)

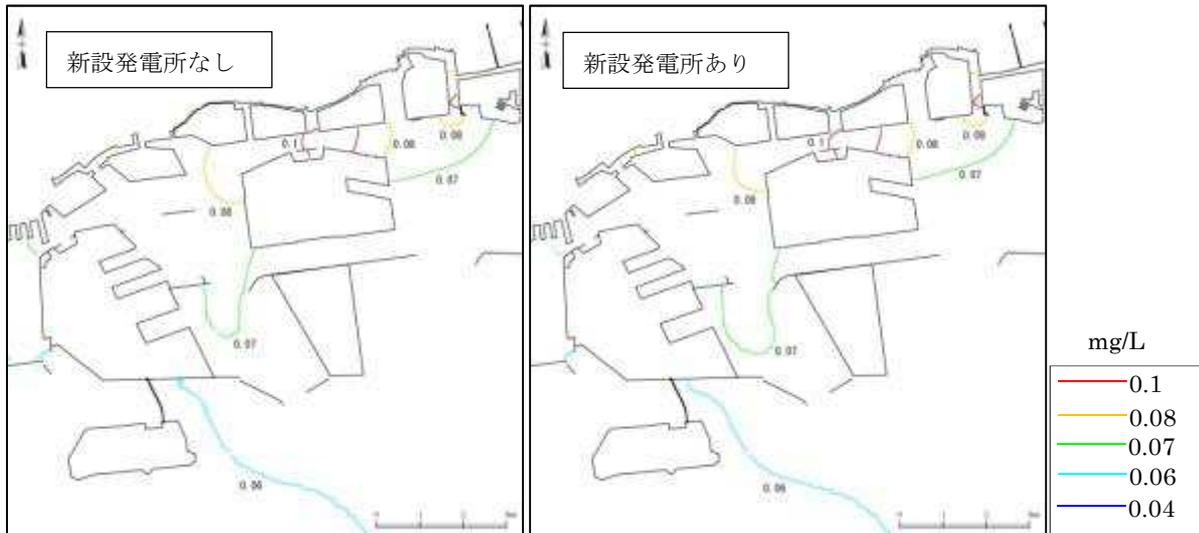


図 7-1(3) T-P の予測結果の平面分布 (表層)

修正後

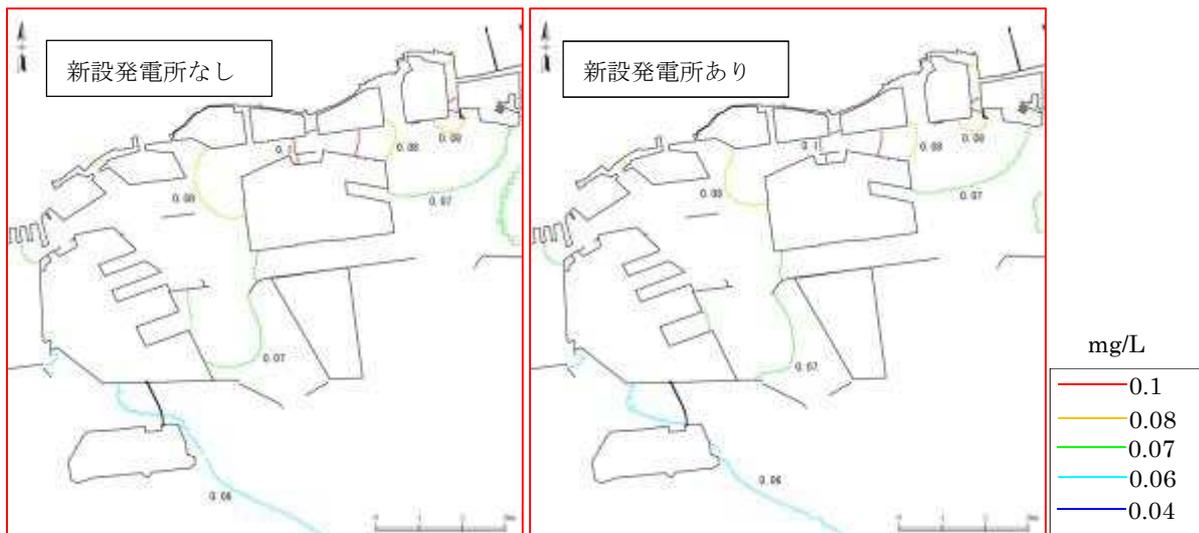


図 7-1(3) T-P の予測結果の平面分布 (表層)

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

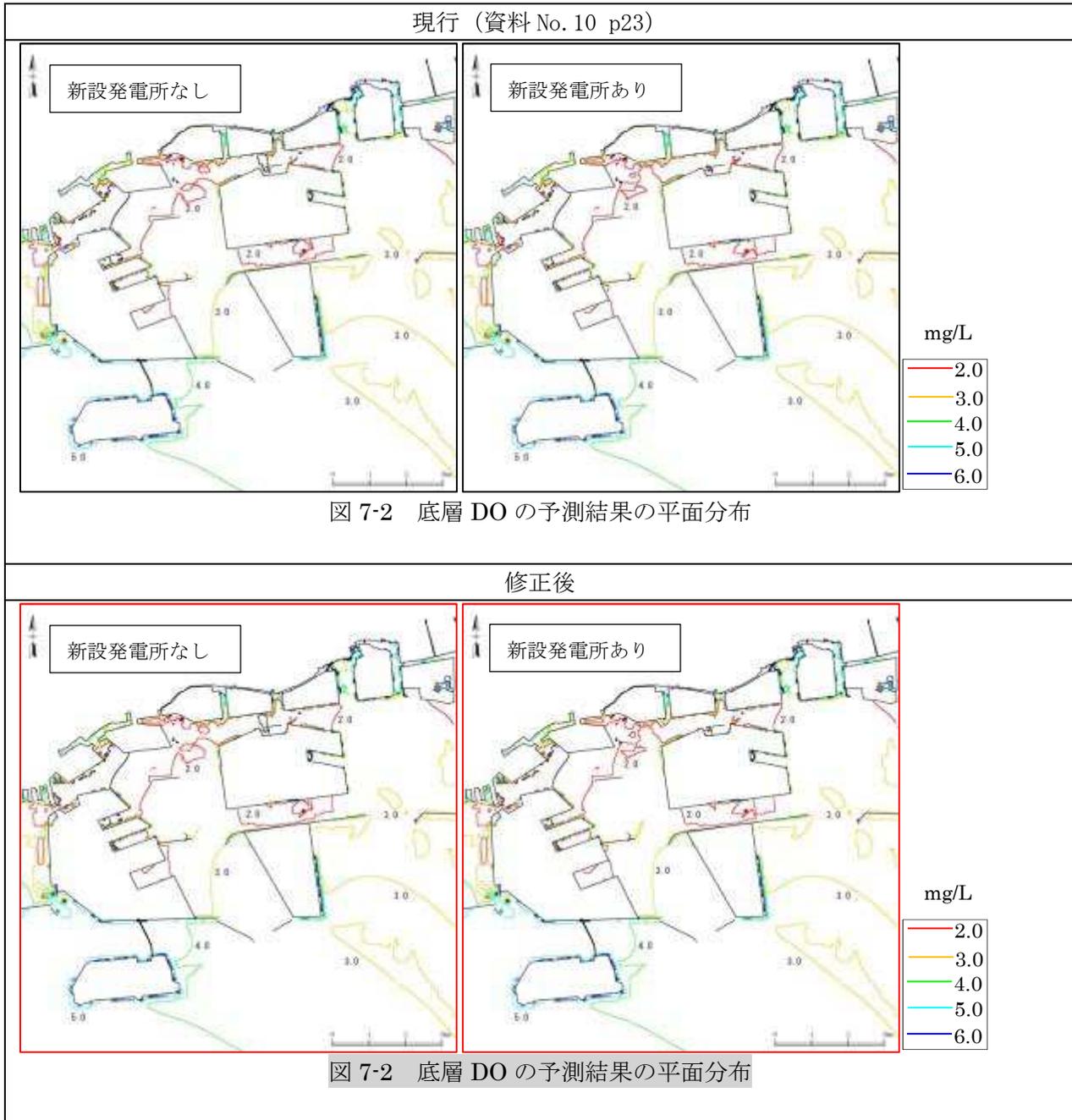
表-24 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p23)
<p>さらに、底層DOについては特に悪化する可能性が指摘されていることから、図 7-3 に示す現地調査等の主な地点での値の比較を行い、予測値を表 7-2 に整理し、稼働後の底層DOの値は放水口周辺で 0.1 mg/L 増加する結果となりました。</p> <p>また、併せて鉛直分布も確認しており、図 7-4 のとおりとなります。</p> <p>今回実施した生態系モデルを考慮したシミュレーション解析では、表 7-3 に示す過去 10 年間の夏季の公共用水域における調査結果の変動幅と比べると増加幅は小さいものの、新設発電所稼働前に比べ、稼働後の底層のDO の値は放水口周辺で約 0.1mg/L 増加する計算結果となり、新設発電所の稼働によって底層の貧酸素状態が助長されることはなく、底層DOはわずかながら増加する可能性が示唆されました。</p>
修正後
<p>さらに、底層DOについては特に悪化する可能性が指摘されていることから、図 7-3 に示す現地調査等の主な地点での値の比較を行い、予測値を表 7-2 に整理し、稼働後の底層DOの値は放水口周辺で 0.2 mg/L 増加する結果となりました。</p> <p>また、併せて鉛直分布も確認しており、図 7-4 のとおりとなります。</p> <p>今回実施した生態系モデルを考慮したシミュレーション解析では、表 7-3 に示す過去 10 年間の夏季の公共用水域における調査結果の変動幅と比べると増加幅は小さいものの、新設発電所稼働前に比べ、稼働後の底層のDO の値は放水口周辺で約 0.2mg/L 増加する計算結果となり、新設発電所の稼働によって底層の貧酸素状態が助長されることはなく、底層DOはわずかながら増加する可能性が示唆されました。</p>

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-25 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)



【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-26 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p24)			
表 7-2 比較地点の底層 DO の予測値			
地点	底層 DO (mg/L)		
	新設発電所なし	新設発電所あり	差濃度 (あり-なし)
4	2.0	2.1	0.1
8	2.0	2.1	0.1
9	3.1	3.2	0.1
10	3.7	3.7	0.0
12	1.3	1.4	0.1
14	2.7	2.7	0.0
16	1.9	2.0	0.1
17	1.0	1.0	0.0
第2工区南六甲大橋	1.3	1.4	0.1

修正後			
表 7-2 比較地点の底層 DO の予測値			
地点	底層 DO (mg/L)		
	新設発電所なし	新設発電所あり	差濃度 (あり-なし)
4	2.0	2.1	0.1
8	2.1	2.2	0.1
9	3.1	3.2	0.1
10	3.7	3.7	0.0
12	1.3	1.5	0.2
14	2.7	2.7	0.0
16	1.9	2.0	0.1
17	1.0	1.0	0.0
第2工区南六甲大橋	1.3	1.4	0.1

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-27 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p25)

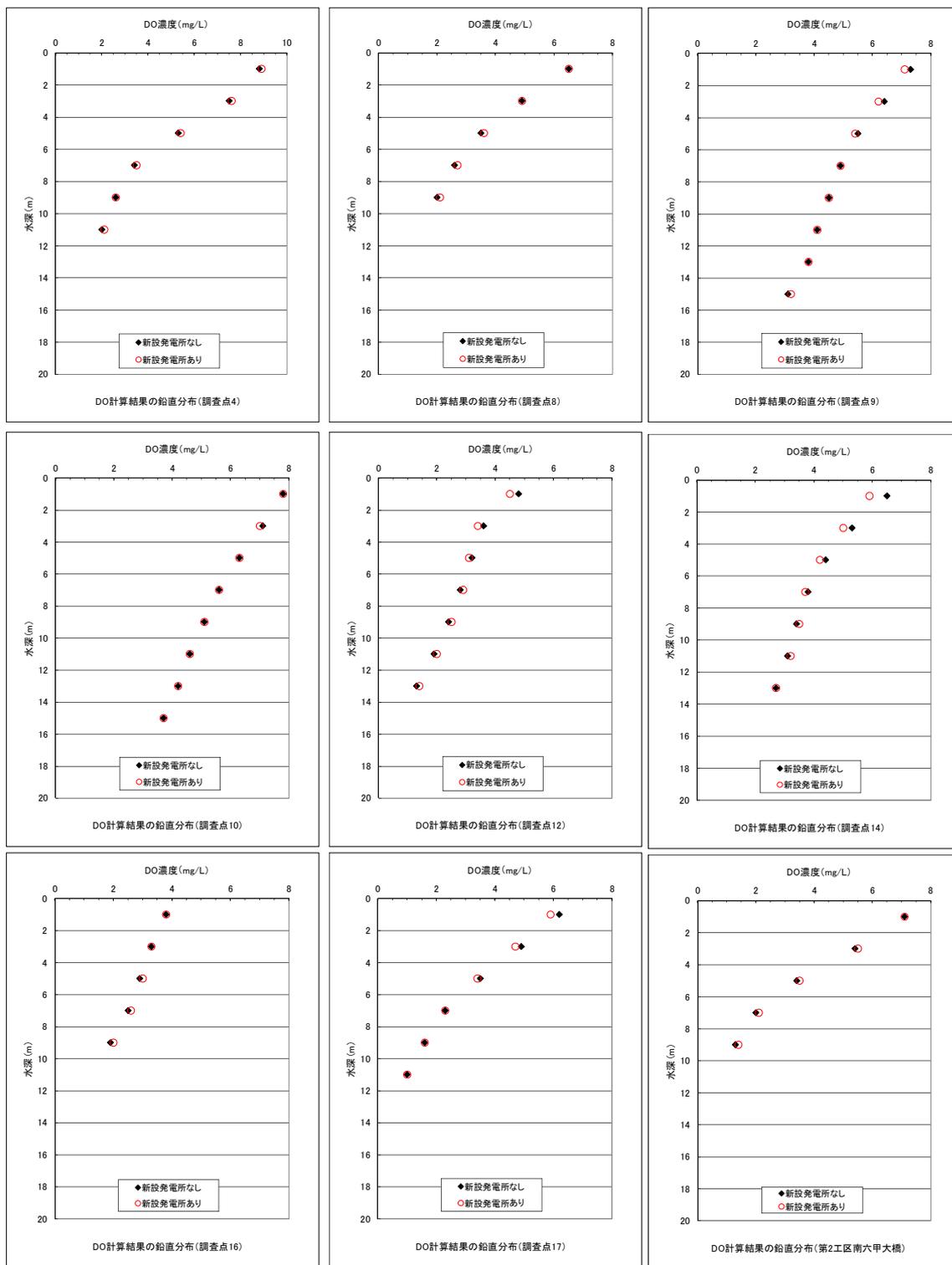


図 7-4 新設発電所稼働前後における各地点の DO の予測結果 (鉛直分布)

修正後

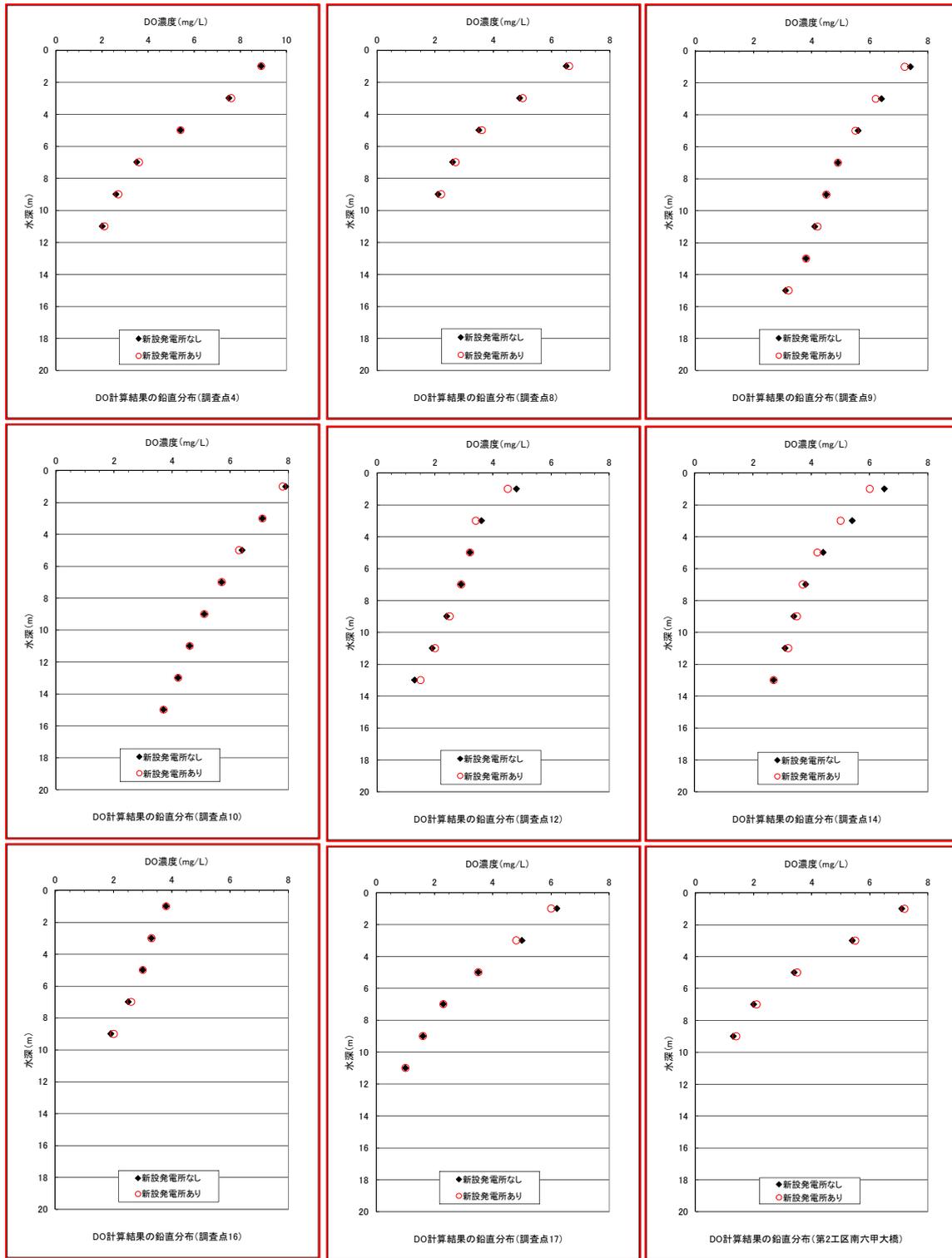


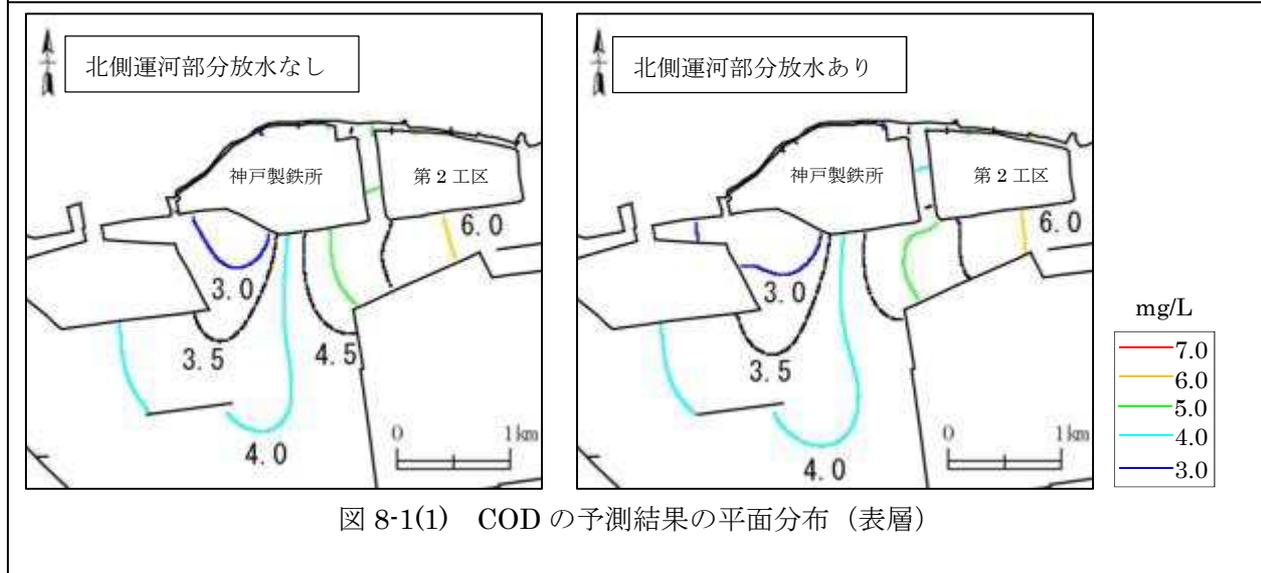
図 7-4 新設発電所稼働前後における各地点の DO の予測結果 (鉛直分布)

【修正理由】

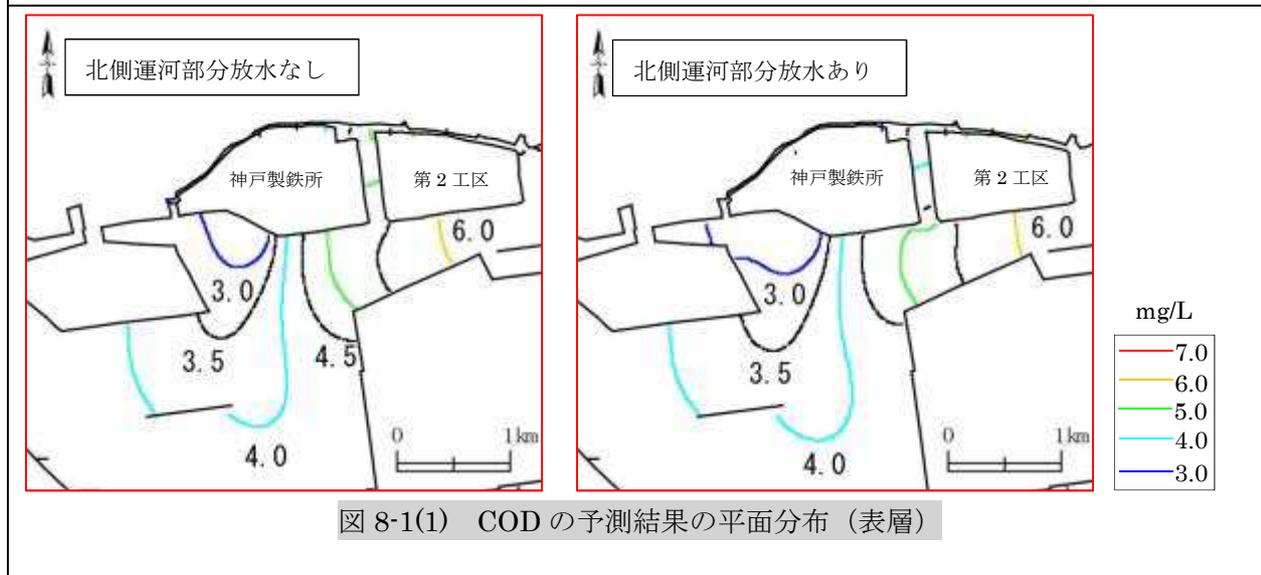
「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-28 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p28)



修正後



【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-29 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p28)

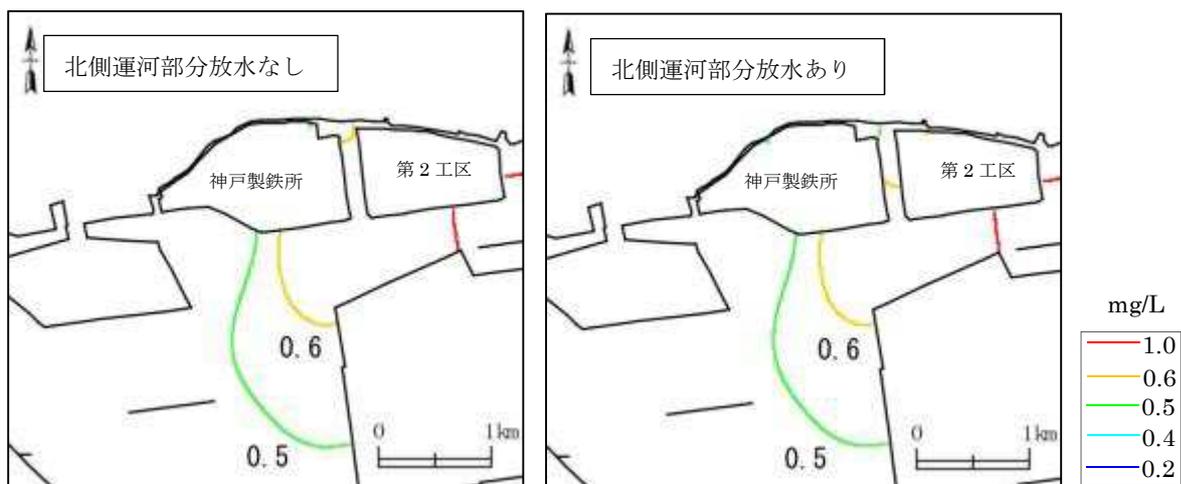


図 8-1(2) T-N の予測結果の平面分布 (表層)

修正後

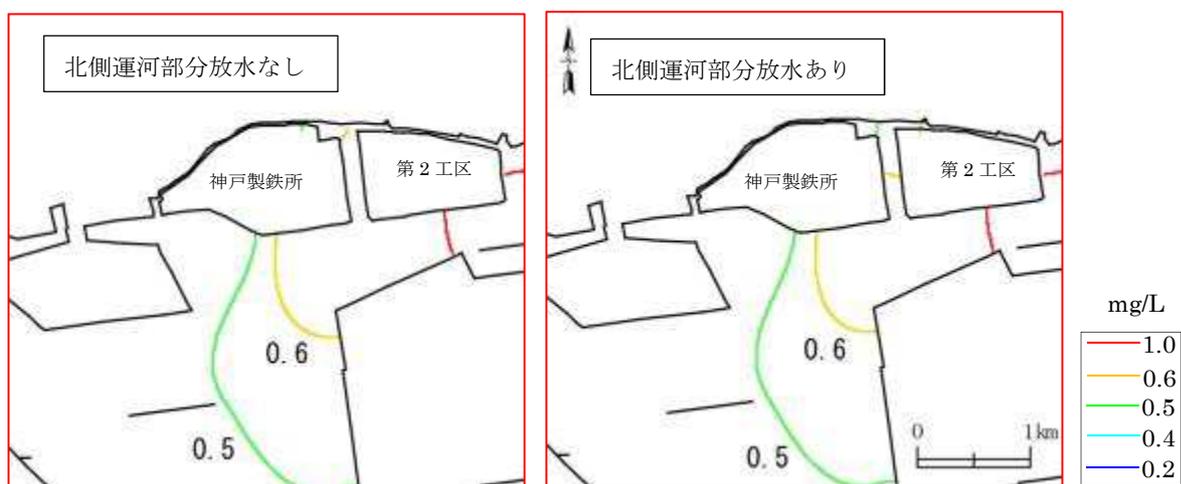


図 8-1(2) T-N の予測結果の平面分布 (表層)

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-30 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p29)

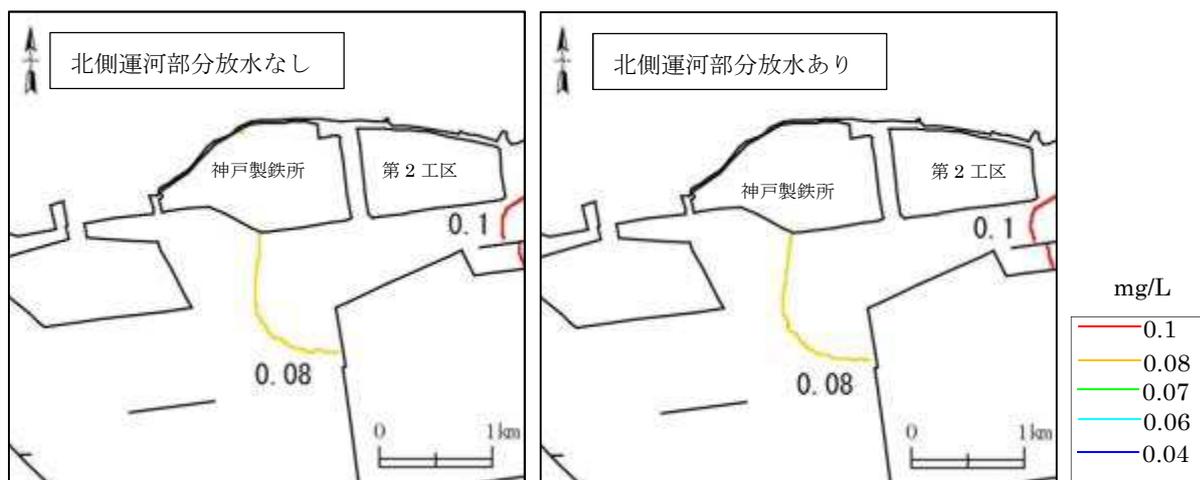


図 8-1(3) T-P の予測結果の平面分布 (表層)

修正後

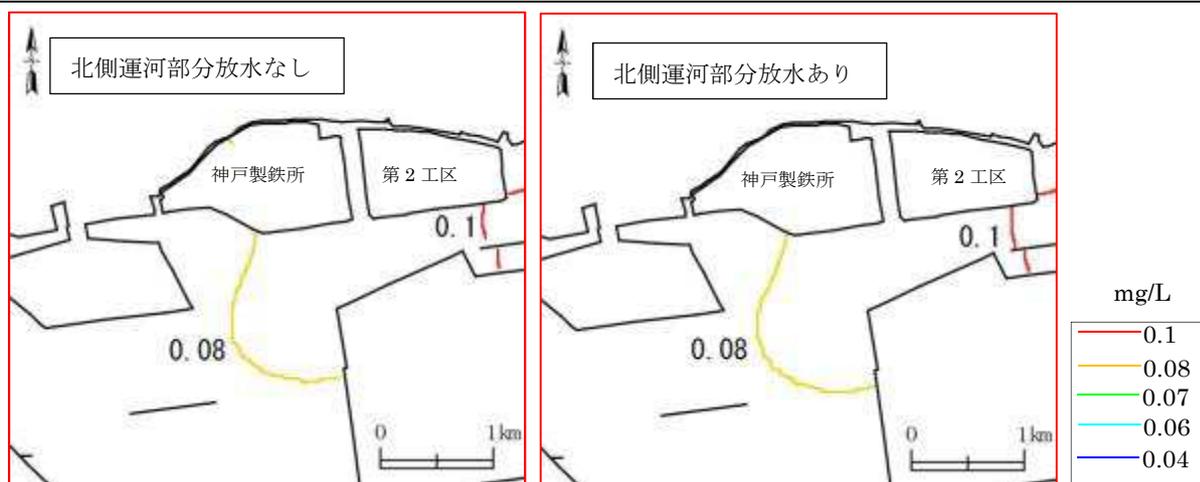


図 8-1(3) T-P の予測結果の平面分布 (表層)

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-31 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 10)

現行 (資料 No. 10 p29)

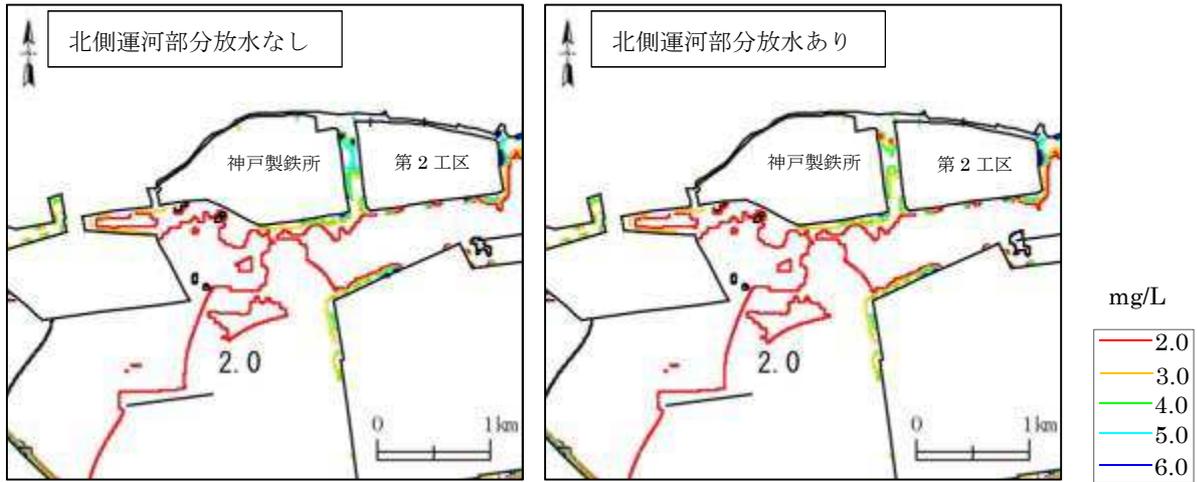


図 8-1(4) DO の予測結果の平面分布 (底層)

修正後

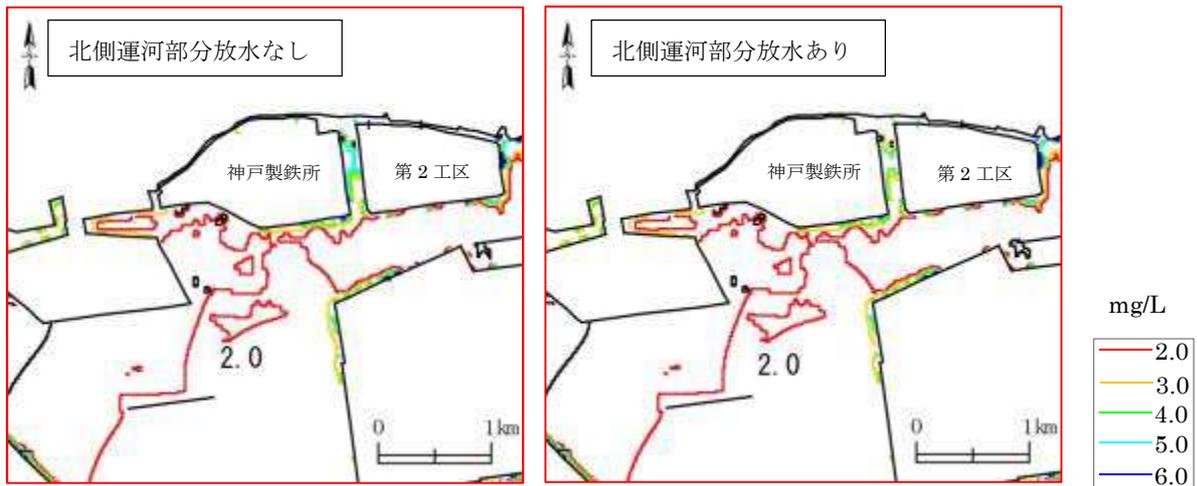


図 8-1(4) DO の予測結果の平面分布 (底層)

【修正理由】

「資料 No.10 p13 表 5-3 水質計算の主要な生化学的パラメータ」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-32 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 18-4)

現行 (資料 No. 18-4 p4-4)
2. 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さの算定式 「窒素酸化物総量規制マニュアル〔新版〕」に記載されている上昇過程における有効煙突高さの算定式 (Montgomery式) を用いました。 $\Delta H = (1/1000 \times Q_H)^{1/3} u^{-1} f(x)$
修正後
2. 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さの算定式 「窒素酸化物総量規制マニュアル〔新版〕」に記載されている上昇過程における有効煙突高さの算定式 (Montgomery式) を用いました。 $\Delta H = (1/1000 \times Q_H / 4.19)^{1/3} u^{-1} f(x)$

【修正理由】

- ⑥ 経済産業省環境影響評価審査顧問会での指摘により式を修正した。

表-33 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 18-4)

現行 (資料 No. 18-4 p4-5)
図1 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さと拡散幅 (Montgomery式：中立時、拡散幅：上層の大気安定度D)
修正後

図1 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さと拡散幅
(Montgomery式：中立時、拡散幅：上層の大気安定度D)

【修正理由】

「資料 No.18-4 p4-4 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さの算定式」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-34 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 18-4)

現行 (資料 No. 18-4 p4-6)

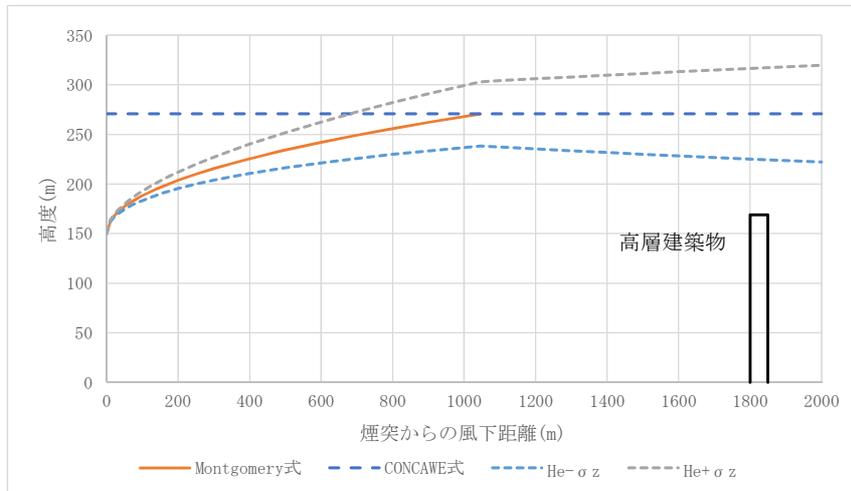


図 2 (1) 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さ と 拡散幅
(Montgomery式 : 弱安定時、拡散幅 : 上層の大気安定度 D)

修正後

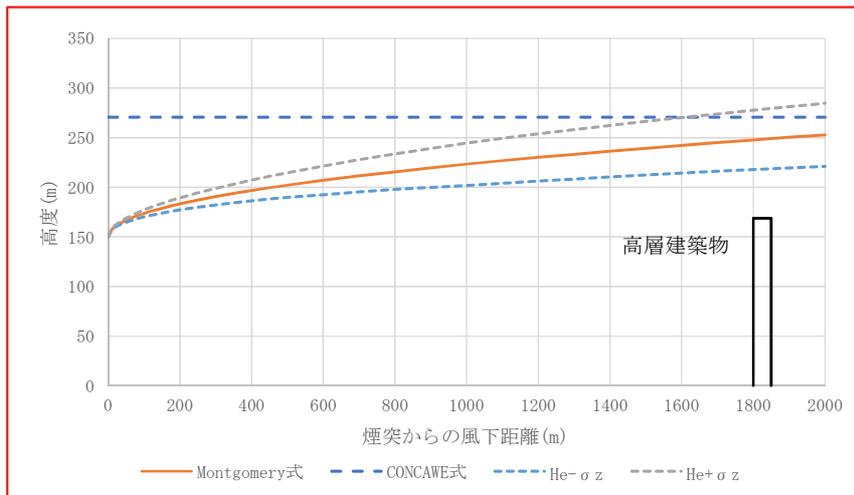


図 2 (1) 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さ と 拡散幅
(Montgomery式 : 弱安定時、拡散幅 : 上層の大気安定度 D)

【修正理由】

「資料 No.18-4 p4-4 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さの算定式」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-35 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 18-4)

現行 (資料 No. 18-4 p4-6)

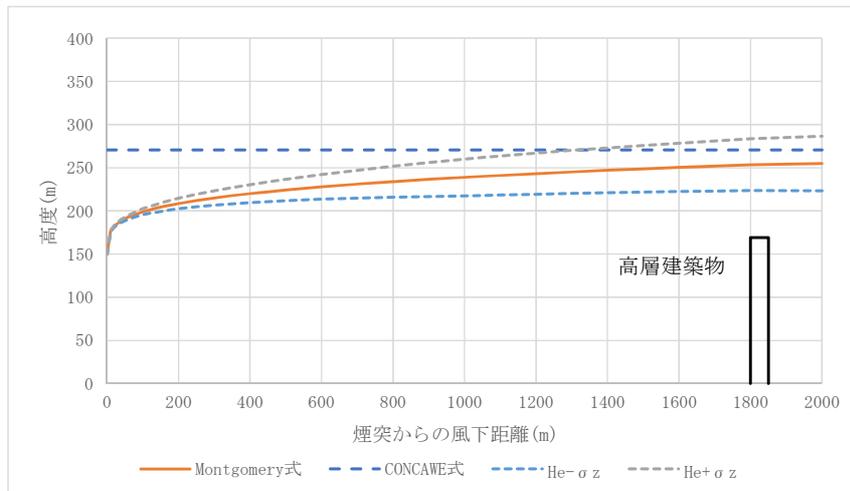


図 2 (2) 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さ と 拡散幅
(Montgomery式 : 弱安定時、拡散幅 : 上層の大気安定度 E)

修正後

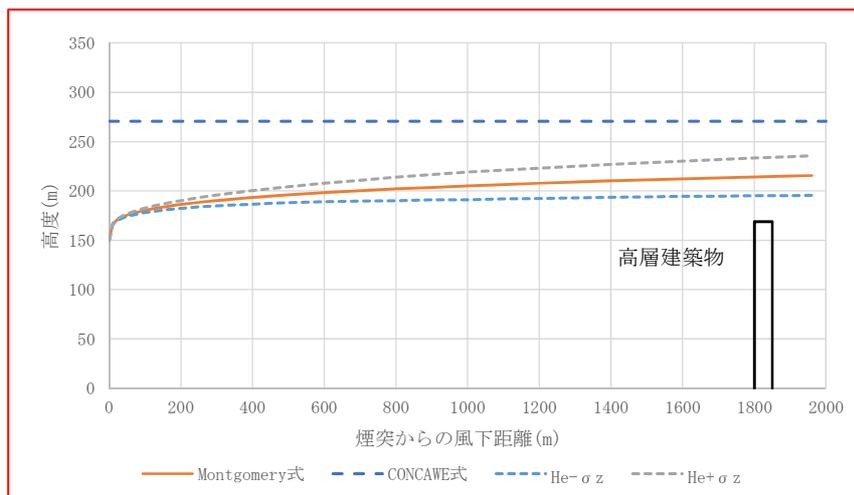


図 2 (2) 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さ と 拡散幅
(Montgomery式 : 弱安定時、拡散幅 : 上層の大気安定度 E)

【修正理由】

「資料 No.18-4 p4-4 排煙上昇過程を考慮した有効煙突高さの算定式」の修正に伴い、再計算を行った結果を反映した。

表-36 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 18-6)

現行 (資料 No. 18-6 p6-1)			
3. 環境基準の年平均相当値は、調査地域内にある一般局 (二酸化硫黄については 21 局、二酸化窒素については 33 局、浮遊粒子状物質については 31 局) の平成 23~27 年度の観測値を基に作成した以下の式により求めた。			
二酸化硫黄	$y = 0.4911 \cdot x - 0.0006$	y : 年平均相当値 (ppm)	x : 日平均値の 2% 除外値 (ppm)
二酸化窒素	$y = 0.5579 \cdot x - 0.0032$	y : 年平均相当値 (ppm)	x : 日平均値の年間 98% 値 (ppm)
浮遊粒子状物質	$y = 0.2864 \cdot x + 0.0050$	y : 年平均相当値 (mg/m ³)	x : 日平均値の 2% 除外値 (mg/m ³)
修正後			
3. 環境基準の年平均相当値は、調査地域内にある一般局 (二酸化硫黄については 21 局、二酸化窒素については 33 局、浮遊粒子状物質については 31 局) の平成 23~27 年度の観測値を基に作成した以下の式により求めた。			
二酸化硫黄	$y = 0.4917 \cdot x - 0.0006$	y : 年平均相当値 (ppm)	x : 日平均値の 2% 除外値 (ppm)
二酸化窒素	$y = 0.5573 \cdot x - 0.0032$	y : 年平均相当値 (ppm)	x : 日平均値の年間 98% 値 (ppm)
浮遊粒子状物質	$y = 0.2838 \cdot x + 0.0052$	y : 年平均相当値 (mg/m ³)	x : 日平均値の 2% 除外値 (mg/m ³)

【修正理由】

- ④ 文献等のデータ集計にあたり、兵庫県のホームページから大気環境濃度のデータをダウンロードした際、異常値が一部含まれており、正しいデータ (1 時間値) で再統計処理を行ったが、その結果を反映していなかった。

表-37 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 18-8)

現行 (資料 No. 18-8 p8-1)
<p>準備書に記載した水銀濃度は、$0.10 \mu\text{g/g}$ としております。この値は、神戸発電所で使用している石炭 (16 炭種 51 ロット) 中の水銀濃度の最大値に変動幅を考慮した数値で、現時点で使用を予定している石炭で最も高い値としております。これより計算される新設発電所の排煙中の水銀濃度は、$3.08 \mu\text{g/m}^3$ (準備書 P12. 1. 1-222) となります。</p> <p>また、上記の平均値は $0.02 \mu\text{g/g}$ であり、これから計算される排煙中濃度は $0.62 \mu\text{g/m}^3$ となります。同様に、最小値は $0.01 \mu\text{g/g}$ であり、排煙中の水銀濃度は約 $0.31 \mu\text{g/m}^3$ となります。</p> <p>新設発電所における排煙中の水銀濃度の平均値は $0.62 \mu\text{g/m}^3$、最小～最大値は、$0.31 \sim 3.08 \mu\text{g/m}^3$ と想定されます。いずれも、今般、大気汚染防止法で新たに定められた石炭火力発電所の排煙中の水銀濃度の基準値 (新設：$8 \mu\text{g/m}^3_{\text{N}}$、既設：$10 \mu\text{g/m}^3_{\text{N}}$) を十分に下回っております。</p>
修正後
<p>準備書に記載した水銀濃度は、$0.10 \mu\text{g/g}$ としております。この値は、神戸発電所で使用している石炭 (16 炭種 51 ロット) 中の水銀濃度の最大値に変動幅を考慮した数値で、現時点で使用を予定している石炭で最も高い値としております。これより計算される新設発電所の排煙中の水銀濃度は、$3.04 \mu\text{g/m}^3$ (準備書 P12. 1. 1-222) となります。</p> <p>また、上記の平均値は $0.02 \mu\text{g/g}$ であり、これから計算される排煙中濃度は $0.61 \mu\text{g/m}^3$ となります。同様に、最小値は $0.01 \mu\text{g/g}$ であり、排煙中の水銀濃度は約 $0.30 \mu\text{g/m}^3$ となります。</p> <p>新設発電所における排煙中の水銀濃度の平均値は $0.61 \mu\text{g/m}^3$、最小～最大値は、$0.30 \sim 3.04 \mu\text{g/m}^3$ と想定されます。いずれも、今般、大気汚染防止法で新たに定められた石炭火力発電所の排煙中の水銀濃度の基準値 (新設：$8 \mu\text{g/m}^3_{\text{N}}$、既設：$10 \mu\text{g/m}^3_{\text{N}}$) を十分に下回っております。</p>

【修正理由】

「第 12. 1. 1. 1-75 表 排煙中の重金属等の微量物質濃度」の水銀の大気への排出割合及び排煙中の濃度の修正に伴い数値を修正した。

表－38 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 18-8）

現行（資料 No. 18-8 p8-1）			
表 排煙中の重金属等の微量物質濃度			
	石炭中の水銀濃度 ($\mu\text{g/g}$)	大気への排出割合 ⁴⁾ (%)	排煙中の水銀濃度 ⁵⁾ ($\mu\text{g/m}^3$)
最小	0.01 ¹⁾	26.9	0.31
平均	0.02 ²⁾		0.62
最大（準備書記載）	0.10 ³⁾		3.08
修正後			
表 排煙中の重金属等の微量物質濃度			
	石炭中の水銀濃度 ($\mu\text{g/g}$)	大気への排出割合 ⁴⁾ (%)	排煙中の水銀濃度 ⁵⁾ ($\mu\text{g/m}^3$)
最小	0.01 ¹⁾	26.6	0.30
平均	0.02 ²⁾		0.61
最大（準備書記載）	0.10 ³⁾		3.04

【修正理由】

「第 12. 1. 1. 1-75 表 排煙中の重金属等の微量物質濃度」の水銀の大気への排出割合及び排煙中の濃度の修正に伴い数値を修正した。

表-39 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 18-10)

現行 (資料 No. 18-10 p10-3)					
【稼働後の年間総排出量】 (将来の石炭性状の変動を考慮した試算値)					
	協定値 (年間総排出量)	現状 (2007~2016 年度実績)	将来		
			利用率 最小(50%)	基準(70%)	最大(80%)
SOx	730 t/年	製鉄所 123~179 神戸発電所 287~341 合計 410~520 t/年	441 t/年	614 t/年	706 t/年
NOx	1,500 t/年	製鉄所 240~470 神戸発電所 696~858 合計 936~1,328 t/年	931 t/年	1,282 t/年	1,457 t/年
ばいじん	250 t/年	製鉄所 11~ 73 神戸発電所 34~ 69 合計 45~142 t/年	126 t/年	176 t/年	203 t/年
修正後					
【稼働後の年間総排出量】 (将来の石炭性状の変動を考慮した試算値)					
	協定値 (年間総排出量)	現状 (2007~2016 年度実績)	将来		
			利用率 最小(50%)	基準(70%)	最大(80%)
SOx	730 t/年	製鉄所 123~176 ^{*1} 神戸発電所 303 ^{*2} ~341 合計 426 ^{*2} ~517 ^{*1} t/年	444 ^{*4} t/年	619 ^{*4} t/年	706 t/年
NOx	1,500 t/年	製鉄所 240~476 ^{*3} 神戸発電所 695 ^{*1} ~858 合計 935 ^{*1} ~1,334 ^{*3} t/年	953 ^{*4} t/年	1,289 ^{*4} t/年	1,457 t/年
ばいじん	250 t/年	製鉄所 11~ 73 神戸発電所 34~ 69 合計 45~142 t/年	126 ^{*4,5} t/年	175 ^{*4,5} t/年	199 ^{*4,5} t/年

【修正理由】

- ※1 ① 環防部 No.75,112,120,198,199：年間総排出量の算出に必要な灯油密度、石炭排ガス係数、及び酸素濃度に入力ミスがあった。
 - ※2 ⑤ 神戸発電所の年間総排出量について、直近 10 年間のデータで整理すべきところを 11 年分で整理していた。
 - ※3 ⑤ 神戸製鉄所の年間総排出量について、データの参照先を誤っていた。
 - ※4 ⑤ 将来の年間総排出量の試算にあたり、神戸製鉄所の設定値に誤りがあった（稼働率を 100%としていなかった）。
 - ※5 ⑤ 将来の年間総排出量の試算にあたり、神戸製鉄所の設定値に誤りがあった（将来休止する設備を除外できていなかった）。
- ※ばいじんの 126t/年については、修正を全て反映すると、結果的に数値の変更はなかった。

※⑤は、自主検証で判明した①と同じ頁内に存在したため、資料 4 の資料⑦でも掲載しているもの。

表-40 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 19-3）

現行（資料 No. 19-3 p3-3）	
<p>仔アユの流下期（11/15～12/14）と考えられる都賀川河口域での水温は、15.4～22.0℃となっており、下茂ら³⁾のアユ仔稚魚期の適水温 7～25℃の範囲内にあり、仔アユへの水温影響は小さいと考えられます。なお、遡上期（4/1～5/31）の水温は、13.2～23.5℃となっていました。</p>	
修正後	
<p>仔アユの流下期（11/15～12/14）と考えられる都賀川河口域での水温は、15.4～22.0℃となっており、下茂ら³⁾のアユ仔稚魚期の適水温 7～25℃の範囲内にあり、仔アユへの水温影響は小さいと考えられます。なお、遡上期（4/1～5/31）の水温は、<u>12.3</u>～23.5℃となっていました。</p>	

【修正理由】

- ② KANSO_{No.23}：遡上期における最小温度を誤って記載した。

表-41 補足説明資料記載の修正内容（資料 No. 19-3）

現行（資料 No. 19-3 p3-3）				
表1 都賀川河口域での水温測定結果				
水深/項目	11/15～12/14 (流下期)		4/1～5/31 (遡上期)	
	最 小	最 大	最 小	最 大
海面下 1m	15.9℃	22.0℃	13.2℃	23.5℃
海面下 3m	15.6℃	21.9℃	13.0℃	22.3℃
海面下 6m	15.4℃	20.2℃	12.3℃	20.5℃
修正後				
表1 都賀川河口域での水温測定結果				
水深/項目	11/15～12/14 (流下期)		4/1～5/31 (遡上期)	
	最 小	最 大	最 小	最 大
海面下 1m	15.9℃	22.0℃	<u>13.2℃</u>	23.5℃
海面下 3m	15.6℃	21.9℃	13.0℃	22.3℃
海面下 6m	15.4℃	20.2℃	<u>12.3℃</u>	20.5℃

【修正理由】

- ② KANSO_{No.23}：遡上期における最小温度の記載について、12.3℃に下線を引くべきところを、誤って13.2℃に下線を引いていた。

表-42 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 19-4)

現行 (資料 No. 19-4 p4-3)			
表 1 (2) 主な出現種 (冬季)			
調査項目 調査時期	神戸発電所アセス調査 平成 9 年 2 月	事後調査 平成 19 年 2 月	現況アセス 平成 28 年 2 月
底生生物 (メガロベント ス)	フタホシイシガニ シャコ ヒメガザミ ムラサキイガイ	調査していない	フタホシイシガニ シャコ ヒメガザミ ヘリトリコブシ
動物プランクトン	かいあし亜綱のノブリス期 幼生 <i>Microsetella norvegica</i> <i>Oithona davisae</i> <i>Oithona</i> spp. 二枚貝期 アンボ期幼生	かいあし亜綱のノブリス期幼生 <i>Evadne nordmanni</i> <i>Oithona davisae</i> 二枚貝綱 D 状幼生 二枚貝期 アンボ期幼生	二枚貝期 アンボ期幼生 二枚貝綱 D 状幼生 <i>Oithona similis</i> <i>Paracalanus parvus</i> <i>Oithona</i> 属(コペポダイト期幼生)
修正後			
表 1 (2) 主な出現種 (冬季)			
調査項目 調査時期	神戸発電所アセス調査 平成 9 年 2 月	事後調査 平成 19 年 2 月	現況アセス 平成 28 年 2 月
底生生物 (メガロベント ス)	フタホシイシガニ シャコ ヒメガザミ ムラサキイガイ	調査していない	フタホシイシガニ シャコ ヒメガザミ ヘリトリコブシ
動物プランクトン	かいあし亜綱のノブリス期 幼生 <i>Microsetella norvegica</i> <i>Oithona davisae</i> <i>Oithona</i> spp. 二枚貝綱 アンボ期幼生	かいあし亜綱のノブリス期幼生 <i>Evadne nordmanni</i> <i>Oithona davisae</i> 二枚貝綱 D 状幼生 二枚貝綱 アンボ期幼生	二枚貝綱 アンボ期幼生 二枚貝綱 D 状幼生 <i>Oithona similis</i> <i>Paracalanus parvus</i> <i>Oithona</i> 属(コペポダイト期幼生)

【修正理由】

- ② KANSONo.24 : フタホシイシガニ、二枚貝綱に誤植があった。
- ④ 動物プランクトンに誤植があった。

表-43 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 21-1)

現行 (資料 No. 21-1 p3)					
【稼働後の年間総排出量】 (将来の石炭性状の変動を考慮した試算値)					
	協定値 (年間総排出量)	現状 (2007～2016 年度実績)	将来		
			利用率 最低(50%)	利用率 基準(70%)	利用率 最大(80%)
SO _x	730 t/年	製鉄所 123～179	7	7	7
		神戸発電所 303～341	256	359	410
		新設発電所 —	181	253	289
		合計 426～520 t/年	444 t/年	619 t/年	706 t/年
NO _x	1,500 t/年	製鉄所 240～476	111	111	111
		神戸発電所 696～858	466	652	745
		新設発電所 —	376	526	601
		合計 936～1,334 t/年	953 t/年	1,289 t/年	1,457 t/年
ばいじん	250 t/年	製鉄所 11～ 73	3	3	3
		神戸発電所 34～ 69	73	102	116
		新設発電所 —	50	70	80
		合計 45～142 t/年	126 t/年	175 t/年	199 t/年
修正後					
【稼働後の年間総排出量】 (将来の石炭性状の変動を考慮した試算値)					
	協定値 (年間総排出量)	現状 (2007～2016 年度実績)	将来		
			利用率 最低(50%)	利用率 基準(70%)	利用率 最大(80%)
SO _x	730 t/年	製鉄所 123～176	7	7	7
		神戸発電所 303～341	256	359	410
		新設発電所 —	181	253	289
		合計 426～517 t/年	444 t/年	619 t/年	706 t/年
NO _x	1,500 t/年	製鉄所 240～476	111	111	111
		神戸発電所 695～858	466	652	745
		新設発電所 —	376	526	601
		合計 935～1,334 t/年	953 t/年	1,289 t/年	1,457 t/年
ばいじん	250 t/年	製鉄所 11～ 73	3	3	3
		神戸発電所 34～ 69	73	102	116
		新設発電所 —	50	70	80
		合計 45～142 t/年	126 t/年	175 t/年	199 t/年

【修正理由】

- ① 環防部 No.75,112,120,198,199：年間総排出量の算出に必要な灯油密度、石炭排ガス係数、及び酸素濃度に入力ミスがあった。

表-44 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 21-2)

現行 (資料 No. 21-2 p7)	
<p>排煙中の水銀濃度は、石炭中の水銀濃度に対する設定の考え方の違いにより、武豊火力発電所の値 ($0.97 \mu\text{g}/\text{m}^3$) に比べ当社新設発電所の最大値 ($3.08 \mu\text{g}/\text{m}^3$) は大きく想定しております。しかし、当社神戸発電所における石炭中水銀濃度の実績の平均値は $0.02 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、武豊火力発電所の準備書記載値 ($0.03 \mu\text{g}/\text{g}$) と同等となっています。</p> <p>排煙中の水銀濃度に関しては、神戸発電所の実績平均値は $0.62 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、武豊火力発電所の準備書に記載された排出濃度 ($0.97 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と同等以下と考えております。</p>	
修正後	
<p>排煙中の水銀濃度は、石炭中の水銀濃度に対する設定の考え方の違いにより、武豊火力発電所の値 ($0.97 \mu\text{g}/\text{m}^3$) に比べ当社新設発電所の最大値 ($3.04 \mu\text{g}/\text{m}^3$) は大きく想定しております。しかし、当社神戸発電所における石炭中水銀濃度の実績の平均値は $0.02 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、武豊火力発電所の準備書記載値 ($0.03 \mu\text{g}/\text{g}$) と同等となっています。</p> <p>排煙中の水銀濃度に関しては、神戸発電所の実績平均値は $0.61 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、武豊火力発電所の準備書に記載された排出濃度 ($0.97 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と同等以下と考えております。</p>	
<p>【修正理由】</p> <p>「第 12. 1. 1. 1-75 表 排煙中の重金属等の微量物質濃度」の水銀の大気への排出割合及び排煙中の濃度の修正に伴い数値を修正した。</p>	

表-45 補足説明資料記載の修正内容 (資料 No. 21-2)

現行 (資料 No. 21-2 p7)			
表 1 排煙中の水銀濃度			
	当社新設発電所		武豊火力発電所
	最大 (準備書記載値)	平均	準備書記載値
石炭中の水銀濃度 ($\mu\text{g}/\text{g}$)	0.10 (実績最大値に変動幅を加えた値)	0.02 (実績平均値)	0.03 (実績平均値)
排煙中の水銀濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	3.08	0.62	0.97
修正後			
表 1 排煙中の水銀濃度			
	当社新設発電所		武豊火力発電所
	最大 (準備書記載値)	平均	準備書記載値
石炭中の水銀濃度 ($\mu\text{g}/\text{g}$)	0.10 (実績最大値に変動幅を加えた値)	0.02 (実績平均値)	0.03 (実績平均値)
排煙中の水銀濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	3.04	0.61	0.97

【修正理由】

「第 12.1.1.1-75 表 排煙中の重金属等の微量物質濃度」の水銀の大気への排出割合及び排煙中の濃度の修正に伴い数値を修正した。

表-46 補足説明資料記載の修正内容（県第3回 資料1-3）

現行（資料1-3 p3-1）

表1 主要な眺望点からの距離と最大垂直視角

番号	眺望点の名称	景観区分	方向	距離	煙突の最大垂直視角（度） 〔実際に視認される垂直視角〕
1	六甲山上駅天覧台	遠景	北	約5.6km	約1.5〔約1.1〕
2	神戸市役所1号館展望ロビー	遠景	西南西	約4.8km	約1.8〔約1.2〕

修正後

表1 主要な眺望点からの距離と最大垂直視角

番号	眺望点の名称	景観区分	方向	距離	煙突の最大垂直視角（度） 〔実際に視認される垂直視角〕
1	六甲山上駅天覧台	遠景	北	約5.6km	約1.5〔約1.1〕
2	神戸市役所1号館展望ロビー	中景	西南西	約4.8km	約1.8〔約1.2〕

【修正理由】

- ② KANSONo.25：文言を誤って記載した。